

平成 2 7 年第 4 回 邑 楽 町 議 会 定 例 会 議 事 日 程 第 2 号

平成 2 7 年 1 2 月 2 4 日（木曜日） 午前 1 0 時開議

邑 楽 町 議 会 議 場

第 1 一般質問

○出席議員（13名）

1 番	黒 田 重 利	議員	2 番	大 賀 孝 訓	議員
3 番	瀬 山 登	議員	4 番	松 島 茂 喜	議員
5 番	塩 井 早 苗	議員	6 番	原 義 裕	議員
7 番	松 村 潤	議員	8 番	神 谷 長 平	議員
9 番	半 田 晴	議員	10 番	坂 井 孝 次	議員
11 番	大 野 貞 夫	議員	12 番	田部井 健 二	議員
14 番	小 島 幸 典	議員			

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金 子 正 一	町 長
堀 井 隆	副 町 長
大 竹 喜 代 子	教 育 長
小 倉 章 利	総 務 課 長
橋 本 喜 久 雄	企 画 課 長
金 井 幸 男	税 務 課 長
吉 田 紳 二	住 民 課 長
橋 本 圭 司	安全安心課長
河 内 登	健康福祉課長
多 田 哲 夫	子ども支援課長
大 拙 一	農業振興課長 兼農業委員会 事務局 長
半 田 実	商工振興課長
小 島 靖	都市建設課長
神 山 均	会計管理者 兼会計課 長
茂 木 一 夫	水 道 課 長
清 水 雅 文	学校教育課長
半 田 康 幸	生涯学習課長

○職務のため議場に参加した者の職氏名

田 部 井	春 彦	事 務 局 長
石 原	光 浩	書 記

◎開議の宣告

○田部井健二議長 これより本日の会議を開きます。

〔午前10時01分 開議〕

◎一般質問

○田部井健二議長 日程第1、一般質問を行います。

順次発言を許します。

◇ 坂 井 孝 次 議 員

○田部井健二議長 10番、坂井孝次議員。

〔10番 坂井孝次議員登壇〕

○10番 坂井孝次議員 皆さん、おはようございます。議席番号10番、坂井孝次です。先日金子町長におかれましては、ご当選おめでとうございます。これからまた議会と協力し合いながら、町民の信頼に応えていくサービスの提供をお願いしたいと思います。

さて、それでは本題に入らせていただきますけれども、所管ですので、質問は町長にさせていただきます。よろしくお願いします。

ご存じのように、今日本は経済規模でいいますと世界第3位ということです。それで、物質的にも豊かですから、多くの人たちが今幸せだというふうに思っている人はたくさんおられると思います。しかし、今の社会環境は所得格差の拡大から将来に夢が持てないと、それからこれでは生活できないという人がふえているように思います。統計によりますと、日本人の6人に1人が貧困層ということを言われています。これは、世界規模で見ますとワーストフォーです。4番目に悪いということが言われています。また、子供の貧困率も最近話題になっておりますけれども、16.3%と過去最悪を更新していると言われております。

私は、このような社会環境になったのは、大きな原因の一つは働く側にあったと思います。景気のいいときは、こんな会社嫌だからやめてしまおう、すぐやめることができました。そうすると、企業は防衛として、これでは企業は成り立たないということで、徹底的に仕事の一部を簡略化しました。そういうことによって、誰がやめても、誰が来ても、すぐ仕事ができるように変わったと思います。そのためにこの結果、社会では正規社員、非正規社員というシステムができ上がったというふうに私は感じています。そして、これが国のほうからも支援もあったと思います。指導もあったと思いますが、そういう派遣制度というようなものが定着しました。それで、これがまた自治体にも採用されてきたのではないかとこのように思っております。

私は、結果的にこのシステムが貧困をつくっている大きな原因の一つだというふうに考えており

ますので、一日も早くこのシステムから脱却できるようにとの考えから質問させていただきたいと思ひます。

今官製ワーキングプアという言葉が聞かれるのです。これは、自治体が貧困層をつくっているのだということを言っております。言い換えれば、このシステムによって貧困層をみんな自治体がつくっているのだということなのですからけれども、町長はどのような受けとめ方をされておりますか、お聞かせください。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 いわゆるワーキングプアについて、それを自治体でつくっているのではないかといいことですが、一般的に労働市場の規制緩和、自由化等が進んできまして、いわゆる労働市場と経済的な要因が複合的に絡み合った中でこの状況が、そういったことを生み出しているのかと思ひますけれども、私自身この行政を預かるものとして、行政で行う仕事は多岐にわたっております。特に現場の保育園、幼稚園等がそれに当たるわけでもあります。これにつきましてはいろいろな職種によって労働時間、雇用時間というのが非常に複雑になっております。しかし、そうはいっても町民の皆さんへのサービスを低下させるわけにはいかないということを考えておりまして、そういったしますといわゆる臨時職員の賃金、それから正規職員の賃金ということになりますと、当然この差はあるわけでありまして。しかし、働いていただいている方の中には、いわゆる扶養の範囲内で働いているという方もおりますし、また自分の持っている技能等を町行政にぜひ協力をしていただけるといふような方々をお願いしているわけでもありまして、お尋ねのワーキングプアについて、いわゆる自治体でつくっているといふことの認識は私自身持っておりません。

○田部井健二議長 坂井孝次議員。

○10番 坂井孝次議員 自治体がワーキングプアをつくっているという意識はないというご回答をいただきました。

それでは、ここ5年間で呂楽町の正規職員、非正規職員、臨時職員と言われるようですが、どのように推移をしておりますでしょうか。数の点ですけれども、よろしくお願ひいたします。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 平成22年、平成27年、この5年間で比較いたしますと、正規職員については両年とも同数の195人、それから臨時職員は169人から216人、47人ほど、率にいたしまして27%ほど増加しております。この増加の原因については、ただいまお答えをいたしましたように、その事業内容の変化に伴うところの1時間の方、あるいはフルタイムで行う方と大変多岐にわたっておりますので、そういったことが原因になっております。

○田部井健二議長 坂井孝次議員。

○10番 坂井孝次議員 現在正規職員は195名、これは変わっていないということです。それで、臨時職員は216人で47人ほどふえたということですが、臨時職員の中には2種類ありまして、1種と2種があります。1種は、時給制で働いております。2種は、月給制で働いております。今その数が2種は121名です。これからも行政サービスがどんどんふえると思いますので、臨時職員と言われる方々がますますふえるのではないかと私は危惧をしております。

次に、正規職員と非正規職員の給料の差はどのようになっていますでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 給料の差ではありますが、一般的に30歳の年代を申し上げますが、正規職員の給与は24万1,000円、臨時職員の30歳の平均賃金は17万2,000円ということになりますので、差額については6万9,000円ということになっております。

○田部井健二議長 坂井孝次議員。

○10番 坂井孝次議員 30歳の方が24万1,000円、臨時の方で30歳の人が27万2,000円、約6万……

〔「17万円」と呼ぶ者あり〕

○10番 坂井孝次議員 17万2,000円、約7万円の差があります。これは、30歳はこれですが、年齢が高くなればなるほどその差が大きくなるということは当然だと思いますけれども、それではこのことを聞くと、結婚はおろか、子供を育てることが非常に難しいのではないかと私を心配しております。

次に、子供の貧困率が16.3%、この環境を打開するために町長は今どのようなお考えをお持ちでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 子供の貧困率が高い原因としては、いわゆる母子家庭の増加ですとか、低賃金の非正規職員の増加等が挙げられるかと思えます。特に町の臨時職員の皆さんが必ずしも子供の貧困に関係するということは考えておりませんが、しかし町づくりを行っていくということでの臨時職員の皆さんの賃金については常に調査をいたしまして、先ほど1種、2種というお話もありましたが、これは今検討を加えて、若干の引き上げも考えているところでもあります。

貧困対策としては、経済的な理由によっていわゆる学業を受けることが困難という児童生徒の保護者に対しては、今後とも就学援助、これは行ってまいりますし、またさらにこの低所得者世帯を対象といたしまして、就学援助制度を高校生の保護者まで拡大をする、それから高校生や大学生の保護者への入学の準備金の貸し付け、加えて大学生に対する奨学金の貸付制度も実施をしていきたいと、このように思っております。したがって、経済的な理由で勉強に励むことができないというような子供たちに対しては、町、行政のほうとしても援助をしていきたいと、そのように考えてお

ります。

○田部井健二議長 坂井孝次議員。

○10番 坂井孝次議員 これからは賃金の検討とか、それから就学援助をされていくということで、高校生、大学生ということで説明がありました。貧しい人には、基本的には入学支援金とか、そういう考えをお持ちのようですけれども、私はお金の支援も大切な1つだと思っています。しかし、むしろ本来は思いっきり活躍できる職場を与えることのほうが大切だと思います。金がなくなったら支援はできないわけですから、それであれば働く職場を与えて一生懸命頑張ってもらうほうがいいかなというふうに思います。非正規職員のようにかなり苦勞してきた人、その人に仕事を与えられたら、その人は感謝をして一生懸命に町のために働いてくれると思います。私は、そういう考えを持っておりますけれども、町長はどのようにお考えでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 現在臨時職員として働いている職員の方への考え方ということでもあります。これは町のほうでは現在臨時職員として雇用している、お願いしている方も含めて、一般の方への職員の採用ということになるだろうと思いますが、これについてはいわゆる公正な試験制度を取り入れた中で実施しておりますし、この試験制度の中で町の発展に貢献していただける方を職員に採用していくということについては、今までもですが、今後もそんな形で考えていきたい。全ての受験をされる方については、町への思いというか、町への貢献も十分考えていただく中で受験をしていただいていると、そのように受けとめておりますので、今後ともそのように考えていきたいと思えます。

○田部井健二議長 坂井孝次議員。

○10番 坂井孝次議員 公正な試験制度をやっているということで安心しておりますけれども、基本的な採用試験の概要というものをちょっと教えていただけますでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 採用試験については、特に今までもそうなのですが、平成27年度の状況を申し上げますと、1次試験については学力試験を行って、一定レベル以上の学力のある、いわゆる教養試験を行いまして、それに合格をした方が2次試験に進む。2次試験については、作文、集団討論、それから個人面接を行います。合格点以上の上位の者を合格といたしまして、3次試験に進みます。この2次試験については、学力以外の人物評価を総合的に取り入れ行うものでもありまして、3次試験の実施については、実際に職場で働いていく上で、職務遂行能力が適正に行えるかどうかということとを判定いたします。そして、この3次試験に合格した者がいわゆる採用候補者名簿として登録、そして採用ということを行っております。

○田部井健二議長 坂井孝次議員。

○10番 坂井孝次議員 学力1次試験、教養試験ということだそうですが、そういう試験というのは比較的見落とすものが多々あるような気がするのです。人間的適性を。例えばどんなのかといいますと、スポーツ選手のように統率力とか、持久力とか、集中力とか、そういうものがこの試験ではなかなか見出せないと思います。それからもう一つ、職員として大事だと思いますけれども、交渉力とか、説得力とか、そういうのが1次試験ではなかなか見出せないというふうに私は思っておりますので、ともすれば成績のいい人はたくさんのところを受かって、一番いいところに就職するというようなことですから、能力のない人から見るとひがみ根性で、俺たちは一生懸命やろうと思っているのに、あいつらが来たので、俺の職場がなくなったという人もいないわけではないと思います。本来そういうことだと、私は試験は公正な試験だと言われておりますけれども、やっぱり人物本位の試験をしていただきたいと、今まで以上に。そうすることによって、試験で見つけられなかったスポーツ選手が持っているような特性とか、それからオタクと言われるような特殊技能を持っている人というのはなかなか見出せないと思いますので、2次試験のほうで人物を見られるということですが、ぜひその辺も一つ大いに加味していただいた試験制度をお願いしておきます。

それから、私は採用試験について2つほどつけ加えていただければ助かるなど。議員が人事のことに口を挟むのはよくないということは、これは言われておりますし、私もそれが私のリスクだと思って話をさせていただきますけれども、1つには町内在住の人、これに優位性を持たせるのはどうだろうというふうに考えています。町内にいると、ちょっと点がいいというようなことですが、これはなぜかといいますと、町を大事にするという考えがあって町の試験を受けた、ところがいつも落ちていたら、この人たちはいずれ町を離れるというふうに私は心配しております。そういう点で、町内在住の人の優位性というのが1つ加わったらおもしろくなるかなというふうに思っております。

それからもう一つは、家族の所得水準への配慮です。しかし、この方法ですと、多分100%採用試験は町長のさじかげんによって決まると痛烈な批判をされると思います。町長にとっては本当に耐えがたい批判の言葉だと思いますけれども、しかしそれを乗り越えてこそ多くの人に期待される行政サービスができるのではないだろうかというふうに私は思っています。よく町長が言われますように、町づくりは人づくりだということを言われております。自分がこの町をこういうふうにつくりたい。その中でこういう人がいたと。たとえ成績が悪くても、この人は町を興してくれるだろうという考えがあったら、ぜひそういう人を大いに生かしていただいて、町の活性化のために頑張っていただけるのはどうかということです。ぜひそれを町長にお願いしたいというような考えを持っておりますけれども、この考えについてはいかがでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 貴重なご意見としてお承りいたしました。ただ町の職員の採用の規定といいますが、基準があります。これは公に募集をして、そして競争試験を行う中で決定をするということになっておりますので、今後ともこのような形で行っていくということになります。しかし、この雇用形態、町の行政サービスの状況ということが若干変わる点もありますので、受験年齢の引き上げということについては一昨年からですか、年齢の引き上げ等も行っておりますので、そういったことを考えますと、受験の機会ということも多くなりますので、ぜひ経験の豊富な方に受けていただくということも可能になるということでもあります。しかし、競争試験ということでもありますので、その原則というのはやはり守っていかなければいけないというふうに考えております。

○田部井健二議長 坂井孝次議員。

○10番 坂井孝次議員 私もよく理解しているつもりで話を聞いておりますけれども、町はこれからどんどん人が減るということを言われています。そういうことで、何らかの形で打開策を見出していないと、これは止められることができないと思っております。幸い邑楽町の職員の方々に、先日もタワーのところのイルミネーションの行事がありましたし、どんどん町が活気づいているということはよくわかります。したがって、ぜひ職員の方々には町をよくするというために頑張っていただきたいと思います。町を元気にするもしないも、これは町長の考えと行動に決まっていると思います。それさえしっかりしていれば何でもできると、町長はそれだけの力をお持ちだと私は思っています。したがって、これから4年間、今まで以上の期待が寄せられると思いますけれども、どうか一つ町のために自分の考えを大いに主張して、そしてそれを説得して、いい町づくりのために頑張っていただきたいと思います。

私は、興奮したせいか早く話をし過ぎたようで、13分ほど時間が余りましたけれども、これで私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○田部井健二議長 暫時休憩いたします。

〔午前10時29分 休憩〕

○田部井健二議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午前10時45分 再開〕

◇ 大 野 貞 夫 議 員

○田部井健二議長 11番、大野貞夫議員。

〔11番 大野貞夫議員登壇〕

○11番 大野貞夫議員 議席番号11番、大野貞夫です。早速ですが、発言通告に従いまして質問をさせていただきます。

まず最初に、金子町長、3選当選おめでとうございます。邑楽町は、何か3期連続というのは18年ぶりということが言われております。これから邑楽町のより活性化したい町づくりにこれからもぜひ頑張っていただきたいということを申し上げたいと思います。

ご承知のように過日行われたこの町長選挙、金子正一氏が8,248票、こういう得票のもとに当選をされたわけですが、この選挙の結果について町長はどのような感想を持っておられるか、まずお伺いしたいと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 お答えいたします。

私は、町長選挙に当たりまして、特に人口減少対策をはじめとする高齢者対策、教育と文化を高めるための取り組みなどを訴えてまいりました。これらの取り組みとあわせて、私は今までの行財政運営についての評価も町民の皆さんにご理解いただけた、その結果ではないかと思っております。しかし、3期目を迎えるということについては、これまで以上に大きな重い責任と、これからの町づくり、本当に真剣に受けとめていかなければならないというふうに感じております。これからの4年間については、初心を忘れることなくしっかりと町政運営を担っていくことが、そのことがこの責任を果たすことになると思っておりますので、将来に向かってまさに夢と希望の持てる町づくりに努力をしていきたいと、このように思っております。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 過日の選挙の結果ですが、今抱負を語られました。当日の有権者数が2万1,853名、このうち投票をされた方が、投票所に足を運んだ方が1万2,277人、棄権が9,576人、投票率が56.18%、こういうのが選挙の結果だったわけです。当選されたとはいえ、実質的には37.5%前後ですか、金子町長の得票はそういう状態にあるわけでして、そこのところはきちっと見据えて今後行政執行に当たられていってほしいということをまたお願いをしておきたいと思えます。

それで、金子町長の選挙のときの公約といいますか、大きく分けるとマニフェストという形で4項目語られておるわけです。1つには、今先ほど来から町長のほうからもお話が出ていますように子供を生み育てやすい町づくりと、こういうものを目指しますと。それから、中央公民館の建設で、教育と文化を高める町を目指します。支え合って暮らすことが安心して生活できる町づくり、そして最後に工業団地を造成し、企業誘致、雇用の創出を推進しますということが大きく分けると4つのマニフェストが言われてきたわけです。

これは、選挙公報で出されている中の、私ここにちょっと持ってきたのですが、まず最初の子供を生み育てやすい町づくり、この中で個々に細かく言いますと、簡単に私が聞きたいと思ったのは、特に町独自の子育て支援ということで、今まで第3子以降の保育料、給食費の無料、これは今の国の制度からも大きく前進をしている中身だというふうなことで、私もそれは非常に評価をしたいと

思います。

しかし、今度、二、三日前ですか、新聞の中にも報道されていたように、国のほうも来年度からは今までの所得制限、これを撤廃をして、そして第3子以降を無料にするというような方針を語られております。ですから、国も県も恐らくそういう点では、少子高齢化をいかにして食い止めるかという点での個々の具体的な政策を恐らくこれからもどんどん出てくるのではないかというふうに期待もするところでありますけれども、この中で、もちろん中学校卒業までの医療費の無料化ということは、これは特に県もやられているわけですし、それから出産祝金の第1子5万円、第2子10万円、第3子20万円というのも過日の議会の中で議員提案という形で、議会の全員の賛成を得て、そしてこれが実施をされるということになっているわけです。この中で、高校卒業までの医療費の無料化を検討ということが書かれております。出されております。これは、恐らく18歳までというふうに理解してよろしいのだと思うのですが、この検討とする、具体的に例えば今わかっていれば、大体時期的にいつごろからそれを実施するのかどうか、もし具体的にわかっているのでしたらばお話ししていただければというふうに思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 福祉医療費のお尋ねですが、高校生までの無料化ということの検討ですが、現在担当に指示している中身を申し上げますと、特に高校卒業までの医療費の無料化については、入院のみについて検討をしていくというように指示してありますので、これまた議員の皆さんのご理解をいただくということはもっとも、そのとおりでもあります。でき得れば平成28年4月から入院のみについての医療費の無料化を実施していきたいと、そのように思っております。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 わかりました。平成28年1月から……

〔「4月です」と呼ぶ者あり〕

○11番 大野貞夫議員 4月から実施をするという具体的なお答えをいただきました。

それから、中央公民館の問題はこの後触れていきたいと思いますので、そこはちょっと割愛させていただきまして、支え合って暮らすことができる安心して生活できる町、これは地域保健医療介護というようなことが書かれているのですが、これをもう少し具体的にご説明いただければと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 これについては、具体的に地域包括ケアシステムを築き上げると、構築ということになるわけですが、これについてはいわゆる2025年には段階の世代の方が75歳、後期高齢者の年代を迎えるということになります。したがって、地域の皆さん、それから医療、保健、そしてボラン

ティアの皆さん方の協力をいただく中で、こういった住みなれたところで安心して生活ができるような環境をつくっていくということが必要だというふうに思っておりますので、今後地域のお医者さんのご協力もいただきながら、この地域包括ケアシステム、現在地域包括支援センターもあるわけでありすけれども、これらと含めてぜひ安心して安全に生活ができるような環境をつくっていききたいというような思いでもあります。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 それでは、最後の4つ目のマニフェストの中で、企業誘致の問題が出ております。工業団地を造成し、雇用の創出を進めるという点で、これもこれからの町の活性化ということを考えてみた場合には必要なことではあるかと思えます。

それから、町民農園をつくるということが書かれているのですが、遊休農地の活用や農業の6次産業化を進めるということが書かれておりますが、これも何かもう少し具体的なお話ができるのであればご説明をいただきたいと思えます。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 現在遊休農地が大変ふえております。したがって一団を形成している地において、町民の皆さんが活用できるような農地活用を図っていききたいというふうに考えておりまして、これは行政のみだけでは行えませんので、いわゆる農業の専門的な方にもご指導をいただく中で、ぜひ市民農園的な環境をつくって、農地が十分活用できるような形で進めていきたい。現在担当職員に指示してありますので、具体的な状況が見えたらまたご報告させていただきますが、そのような形で遊休農地の活用を図ると同時に、町民の皆さんがそこでいろいろ農作物を作付していただけるような環境をつくっていくと、そういう考え方であります。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 この大きな公約、マニフェスト、これをもとにこれから金子町政がまた新たな4年間を進んでいくわけなので、私もこれらを注視しながら、この政策をやっていく、実施していく、いいものについては大いに私も応援をしていきたいというふうに考えておりますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

それから、次に中央公民館の問題にちょっと移りたいと思えます。ご承知のように今中央公民館は、いわゆる金子町政の1つの目玉としてもうたわれて、過去二十数年来の公民館をつくるという本来の動きからいって現実味を帯びてきて、今現在議会の中でも中央公民館建設特別委員会もでき、そしてこの建設に向かっていろいろ着々と進んでおるという過程にあると思えます。

私は、ここで1つ教育長にお聞きをしたいと思えます。まず、そもそも論といいますか、この公民館活動というのは一体どういうことを指すのか、その役割とかあり方、それから生涯学習ということが言われるわけですが、この生涯学習とはどういうものなのか、いわゆる基本的な認識といい

ますか、教育長の考え方をお聞きをしたいと思います。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 まず、公民館の果たす役割ということですが、社会教育法の第20条によりますと、住民のために実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上、健康増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するものというふうにならなっていますので、私は町民の学習権を保障する施設、これが公民館だというふうに考えます。そのことというのは、個人の自己実現とか向上のみならず、そうすることによって町づくりや町の活性化につながるというふうに考えておりますので、公民館の果たす役割は大きいなというふうに思っております。

2つ質問があったのですけれども、そしてその中で生涯学習という認識ということですが、次でよろしいですか、まとめて。生涯学習というのは、人々の生涯にわたる主体的な学習活動というふうなことで、生涯にわたってあらゆる機会にあらゆる場所で学習することができ、その成果を適切に生かすことができることというふうになっていますので、個人個人があらゆる機会にあらゆる場所で学習することということで、個人が高まることで、それも町づくり活性化につながるということで、大いに生涯学習は守り立てていかなければならないことであるというふうに考え、認識しております。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 わかりました。私は、一番のもとになるのは、やはり憲法でいうと第26条、こんなことを私が、素人が長年教職の場にあった教育長に聞くのはおこがましいのですが、憲法第26条はご承知のように、全て国民は法律の定めるところにより、その能力に応じて等しく教育を受ける権利を有すると。その後、子供たちに普通教育を受けさせる義務を負う、またこの義務教育は、これを無償とすると。いわゆる教育の基本がうたわれているわけです。それで、この基本のもとに、今教育長が言われた社会教育法というのがあって、その施設としていわゆる社会教育施設、いうならば公民館や図書館とか、博物館とか、そういうものも含まれると思いますが、そのように私認識をしているのですが、その点については教育長の考え方はどうですか。私の考え、もし間違っていたら指摘をしていただきたいと思います。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 学ぶ権利がありまして、それを施設で学ぶということであると、議員のおっしゃるとおり教育を施す施設全て当たると思います。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 ほっとしました。違うと言われると、この後話が進んでいかないので。その

ように私の認識も決して間違っていないと、私の考え方でいいというふうにお話いただきましたので、私はこの問題について一般質問をするということになりましたので、今までになくこの分野において、いろいろ私なりに勉強させていただきました。そもそもこの社会教育行政というものの本来の役割というのは、どういうことをうたっているのかなということでもちょっと勉強させていただきましたのですが、社会教育行政の本来の役割ということで、全ての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、みずから實際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならない、これは社会教育法の第3条というものに書かれております。

それから、なおこの社会教育法の第3条に、答申という形ですか、これでいくと……答申ではなくて、2006年というときに新たに条文が新設をされたのです。この中身といいますと、今言われた教育基本法第3条、生涯学習の理念ということなのですが、これを受けて社会教育法第3条第2項に国及び地方公共団体は、前項の任務を行うに当たっては、国民の学習に対する多様な需要を踏まえ、これに適切に対応するために必要な学習の機会の提供及びその奨励を行うことにより、生涯学習の振興に寄与することとなるよう努めるものとする。こういう条文が新たに新設をされたわけです。ですから、先ほど教育長が言われたいわゆる公民館に関するところの社会教育法第20条で言われたことと全く同じ内容がうたわれているわけです。

ちょっと長くなりますけれども、そのほかに教育長の言われた公民館に対して、ここでももう一つ、これはプラスされた文章が答申という形で出されております。これは、この公民館においては各地域の実情やニーズに応じて民間などでは提供されにくい分野の講座開設や子育ての拠点となる活動を積極的に行うなど、社会の要請に応じた学習活動の機会の量的、質的な充実に努め、その成果を地域の教育力の向上に生かすことが求められる。また、関係機関団体と連携協力しつつ、地域の課題解決に向けた支援を行い、地域における公共を形成するための拠点となることが求められる。まさに公民館、それから社会教育施設、これらを総称しますと、やはりこれは1つの学習の場であり、教育という言葉が当てはまるのではないかと。教育というと、必ずしも小学校、中学校、高校、大学の教室の中だけの教育という形ではなくて、全ての人間形成、そういうものを育てていくという大きな観点、視点からすれば、これを教育という形で言われている、これが本来のあるべき姿であらうというふうに思います。

そこで、教育長にもう一度お尋ねをいたします。今日までそうした生涯学習の拠点として果たしてきた町内の3つの施設があるわけです。邑楽町公民館、ヤングプラザ、産業研修会館、この今まで果たしてきた役割といたしますか、それらの活動についてはどのように評価をされておりますか、お聞かせください。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 私は、2つに分けて考えています。1つは、町民の皆さんが持つ学びたいとい

う要求に応じて、それらの施設が生涯学習の拠点としてさまざまな授業を展開したり、学び方を提供したり、発信してきていました。たくさんの人がたくさんの講座で学んでいます。

もう一つは、地域のコミュニティー活動を支える場として、各行政区の共同事務室的な役割を果たして、人々が交流する場をつくったり、ボランティア活動など、そういうのを交流ができるような場として働いたりしながら、町づくりや活性化につなげる役割を果たしてきたかなと、そのように受けとめております。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 わかりました。そこで、今度は町長にお伺いをいたします。今教育長と私のやりとり、それから今までの社会教育行政の本来のあり方とかいうことを紹介させていただきましたが、これらのやりとりを聞いていて、現在町長はこれをどのように思っているか、その見解を聞かせていただければというふうに思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 生涯学習については、いわゆる中央教育審議会の中でも答申が出されておまして、生涯学習についてということの定義づけでもあります。1つには生涯学習審議会の中で、平成7年7月に3点ほど出されているようではありますが、特に生涯学習は生活の向上、職業上の能力の向上、また自己の充実を目指して各人が自発的な意思に基づいて行うということが基本とするものだ。2つ目には、こういったことを可能な限り自分の能力の向上や自己の充実を目指す、まさに生涯を通じて行う。3点目には、いつでも、誰でも、どこでも、何でも人々が自発的に学習活動することによってこの生涯学習活動は行われるものだというふうに思っております。そのことを考えますと、先ほどのお話をお伺いする中では、やはり生涯学習活動は今後も引き続きいわゆる学習の場を提供する拠点としての各種施設、社会教育施設というのは大切なものだというふうに認識しておりますし、町民の皆さんにも引き続き自己研鑽のためにも学習活動を進めていただくということが大切なことではないかというふうに受けとめております。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 今の町長のお話の中にもあったように、この必要性というか、やはり重要な町づくりの1つの柱だというふうに町長が認識をされておられる答弁かなというふうに思います。

そこで、これは中央公民館建設特別委員会の中でもそうなのですが、今後呂栄町のこの施設を有料化にしようという話がもう決まったかのような感じで私には聞こえるのです。私は、必ずしもこの案には賛成できない立場なのですが、今言われたような趣旨の中で、今日まで来たこの施設を有料化にするという考え方はいかがなものかというのがまず私の疑問の1つであるのです。1つには受益者負担、最近非常に受益者負担の考え方が、どの分野をとっても私にとってみると非常に多いのです。こういう考え方の中で出てきたのが有料化の問題かなと。議会の中でも既に町長をはじめ

教育長、副町長も含めて3役の皆さんは、そういう方向のような発言もされているというふうに私も見ております。それから、議会の中でも、中央公民館建設特別委員会の中でも、私のほかに数名を除いて、やはりこれは有料化ということにもやむを得ないのではないかなというふうなことで現実には進んでおります。

私は、民主主義の社会ですから、多数決で決まったことに対しては、やはりこれは決まったことに対しては守っていく、そういう立場でありますけれども、今そういう私の疑問に対して、具体的に有料化という方向がどの程度まで進んでいるのか、その辺が定かには私わかりませんので、わかる範囲内で結構ですからご説明をいただきたい、そのように思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 施設利用についての有料化の具体的な話がどこまで行っているかということですが、現在担当をして、その内容についていろいろ調査をしていただいております。なぜ有料化ということをお願いすると、1つには町内には公民館のみならず他の施設もあるわけでもありまして、そういった施設利用をしている人、していない人ということもありまして、その均衡を図ることが1つ。それから、現在利用料といいますか、徴収をしている体育施設等もあるわけでもあります。したがって、照明あるいはエアコン等を利用する場合に、そういった実費負担といいますか、そういった利用料の徴収ということを行っておりますので、施設の状況も今担当で調査しておりますし、施設の内容についても調査をいたしておりますので、近いうちには議員の皆さんにお示しすることができると思います。私は、基本的にはいわゆる学習権ということはあると思いますが、若干の費用負担というのはお願いするということが必要ではないかというふうに思っております。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 負担はやむを得ないだろうという基本的な考え方だというふうに私は受けとめました。町長は職員のときに学校教育課長、これらも経験をしておるわけですが、ユネスコの学習権宣言という言葉があるのですが、これを聞いたことございますか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ユネスコの学習権の宣言ということかと思いますが、先ほどもご質問の中にもありましたが、日本国憲法において第26条では、いわゆる教育を受ける権利ということが基本的な権利として定められております。そういうことを踏まえた中で、国際的にもこのユネスコにおいて国際宣言がされたということについては、余り細かいところまではわかりませんが、聞き覚えがしてあります。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 今町長のほうからお話がありましたように、大体はそういうことであると思

いますが、要するに一番憲法第26条で言っている教育を受ける権利というのを有するのだということ、これは日本だけの問題だけではなくて、いわゆる国連の場で、各世界の主要都市をめぐりながらこの会議というのは行われているようすけれども、東京でもやはりこういう会議は持たれておるわけです。今ユネスコの学習権宣言というのが出たのが1985年だということですから、随分たつのです。これは、パリで行われたときに出された宣言です。まさに今町長が言われたように、これは万人に共通する基本的権利だということが、これは日本だけの問題ではなくて、世界共通の目標として今こういう宣言が出されたことによって、国連でもそういう立場で今進行しているということなのです。

ですから、こういう大きな流れの中で、そこに振り返ってみると、今これから有料化という問題をするのは私は時代に逆行しているのではないかという気がするのです。むしろそうではなくて、今ある施設をより町民にむしろ余計に使ってもらって、開放、好きなときに好きな時間に使ってもらうことによって、より人間性豊かな人づくりをしていく、そういう場の中に、お金を取ってするという考え方が果たして妥当なのかどうか。それは、今先ほど町長の言われましたように、他の施設との整合性の問題とか、それから例えば我々の町民の税金がある一定の利用者のためだけに使われているとかという、そういう意見もありますけれども、そうではなくして、今先ほど来ずっと言ってきたこの基本的な教育権というのですか、それをもっと花開かせていく、こういう考え方が根底にないと、これからの新たな行政をつくっていく、花開いていかないのではないかと、やっぱり人づくり、町は人あっての人づくりということも言っているわけですから、そういうところに受益者負担みたいな考え方ではなくて、やはり。

というのは、今まで3施設、呂楽町公民館できてから約42年ですか、42年、43年目になりますよね。半世紀に近い中で、なぜ今まで無償で来たのかと。いわゆる減免措置をとってやってきたわけです。それで、皆さんが今物すごく呂楽町では文化活動が非常に盛んですし、私も先日呂楽町公民館にお邪魔してきたときに、もう車いっぱいです、あそこ。いろんなそれぞれの各部屋で活動をやっておりました。あの姿を見たときに、やはり元気で生活を送る、もちろん健康にもいいわけですし、全ての面でやっぱりそういうところに減免措置をとって無償で来たということを、今度これを有料化ということになった場合は、当然新しくでき上がったところだけではなくて、いわゆる今まである3施設もそういう有料化の制度をとっていくわけでしょう。この間の利用者団体との懇談の中でも、ある人は今までの3施設は今までどおりなのだろうと、新しいところだけが有料制になるのかなと思って質問されたという方もあります。そうではなくて、同じ町の施設ですから、片方をとって片方は無料という、これはおかしいものです。

その辺をやっぱりどう折り合いをつけていくのか。考え方からすれば、有料制を導入するという、制度そのものを導入することはお金の問題ではない。お金の問題になってくると、例えば年間で幾ら使用料、あるいは有料化にした場合幾ら収入があるのかという話にもなってきます。大泉町

の文化むらが年間で約120万円とか130万円という話聞きました。これ調べてみるとわかると思うのですが、そういう中で、わずかそのためのお金のために有料制にするのがいいのか、今までどおり減免措置をとって自由に使ってもらおうということのメリット、デメリットを考えてみた場合、どちらが有利かという点もよく考えていく必要があるのではないかというふうに私は思っております。

私いつも思うのは税の公平化という、全く使っていない人からすると、我々の税金が何でそういう一部の人たちのためだけに使われるのかということを言う人の気持ちもわからないわけではないのです。しかし、ここで言っている趣旨は、そういうちまちました問題ではなくて、もっと奥深い、いわゆる人づくりという立場でのことですから、それは我々の税金は大いにそういうところには投入してでも、今までみたいな受益者負担の考え方ではなくて、従来どおり減免措置をとっていくと。強いて言うならば、スポーツとの施設は、違いがあるとするならば、私はそういうところだって減免してもいいと思うのです、むしろ。そこまで考えていくのが、自治体としての本来の考え方でなければならぬのではないかなと、これは私の個人的な見解ですけれども、そういうふうに思いますけれども、その辺はいかがですか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 施設の提供ということ、これは先ほど議員がおっしゃりましたけれども、学習権の保障はしていかなければならないし、今後も引き続き有効活用していただく中で、学習、学力等を高めていただくということはそのとおりでもあります。

利用料の関係については、現在でも実は公民館使用料等についての決まりが条例、規則で決められているわけです。したがって、その利用の内容によって、今議員のほうから言われました減免措置ということが図られているのではないかというふうに思っております。したがって、これは施設が、先ほど申し上げましたが、多岐にわたっておりますので、各施設ごとに利用料、実費弁償費用等を徴収をしている部分について担当のほうで調査をして、そしてこれを機会に一元的な考え方ということが必要だろうという中で現在調査を進めているところでもあります。しかし、この利用料といいますか、使用料については、やはり内容を十分精査した中で徴収していく、利用料を支払っていただくというような方向が私は必要ではないかなというふうに思っております。もちろん学習権の保障ということは、これは十分保障した中で考えていくということが大前提であると、そのように思っております。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 そこで教育長にもう一つお伺いいたします。今県内で、こういう施設に対しての有料制をとっている自治体は何力所ぐらいか、もし場所がわかれば教えていただきたいと思います。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 調べによりますと、前橋市と大泉町の2つです。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 県内でもまだ2か所なのです。新しく中央公民館ができます。利用者、期待する人はいっぱいいると思います。できました。さあ使うときになったらお金を取られるのだと。それだけでなく、今までの既存の施設も減免でやっていたのが、それもお金を取られると、こういうふうになるのです。これは、今までの邑楽町からの大きな転換です。社会教育行政としての大きな転換が金子町長のもとで行われようとしているわけです。私は、よくよくその辺のことを考えていく必要があると思います。これは、時間も差し迫っておりますので、今後機会があればまたこの問題については、私もより研究をして、一番いいところで折り合いがつけばいいなというふうに思っていますけれども、基本的なところをきょうお話をさせていただきました。やはり町づくりというものは、前進していくためにはもちろんプラスマイナスがあるわけですが、基本的なところをまず大事にしていかないと、大きな過ちを犯すのではないかという考えがしないでもないので、きょうはこの問題を取り上げさせていただいたわけです。

いろいろ今後ともこれに関連するようなお話をさせていただきたいと思いますが、とりあえず時間の関係でこの問題についてはここで終わりにして、最後に1つ、国道122号の大根村交差点、ここが拡幅になりまして、ご承知のように従来あそこには歩道橋がついておりました。その歩道橋を利用して、特に11区、谷中蛭沼、住谷崎の一部、七十数名の児童の皆さんがそこを利用して高島小学校に通っていたわけです。今もちろん子供たちは通っているわけですが、今度あそこが撤去されまして、ご承知のようにかなりの広さで、車道が約11メートルですか、そういう拡幅をされました。そこへ持ってきて信号の角にコンビニエンスストアができたわけです。見ていますと、非常に交通量も多くなっていますし、何があっても不思議ではないというような、大変そういう点では前に比較して、歩道橋があるときとないときでは危険度が増しているというふうに私は思います。

そういう中でいろいろ今日まで学校あるいは保護者を通じて警察当局にも要請をしたりとかいうことをずっとやってきたわけですが、あそこには今はPTAの役員が当番制で旗を持って交通整理をやっているわけですが、ここにいわゆる歩車分離方式の信号機、こういうのが今全国至るところでそういうことをやっていますけれども、こういう方向で今まで警察を通じてやってきた経緯があるのですけれども、この辺の進展ぐあいはどの程度まで今いつているのか、これは担当課長でよろしいと思いますけれども、わかる範囲内で結構ですから、答弁をお願いできますか。

○田部井健二議長 清水学校教育課長。

〔清水雅文学校教育課長登壇〕

○清水雅文学校教育課長 お答えします。

大泉警察署で確認したところ、平成28年2月ごろには工事が完了する見込みです。関係者の皆様の働きかけのおかげと認識しています。

○田部井健二議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 非常に交通量が前にも増して格段にふえたということもありますし、あそこにはコンビニができたということで、朝時々あそこへ行って様子を何回か見させてもらったわけですが、前よりも広がった割には危険度は非常に増しているというのが私の印象なのです。

というのは、信号を守らない、いわゆるマナーの点で非常に問題になるような車の運転をする人たちが、見ていますとかなりおります。というのは、コンビニの中を突っ切って、信号を待たずしていくと、時間にも迫られていると思うのですが、そこを今七十数名の子供たちが朝通学、また帰りもそこを使っているわけです。そういうのを現実に見たときには一日も早く、本来は旗当番が立ってやっているわけですが、それも確実に安全を期すかという、前の歩道橋があったときから考えれば心配の種は尽きないというのが現実だと思います。それでも今までみたいに広がったところを、今は大体人数のあれで、旗当番が1人なのです。かなり広い、今度広がったわけですから。そういうところに旗当番でやっていると、子供が途中まで行くと、車の運転手が窓をあけて言うわけです。早く、通せと。もう子供いないではないかと。そんなような場面を私も何回か見ておりますので、ぜひ一日も早く、せめて歩車分離方式の信号機というのですか、今警察のほうで考えているのはそういう方向なのだと思うのですが、でき上がることを切に望むわけです。

何だかんだ言っても、一番危険な目に遭うのは、通行の子供たちですから。子供たちは、大人と違って判断力とかというのはちょっと心配な点もあるので、それは一日も早く実現できるように、格段のひとつご努力をお願いしたいと思います。

時間も差し迫りましたので、これで私の質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございます。

○田部井健二議長 暫時休憩いたします。

〔午前 11時43分 休憩〕

○田部井健二議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 1時00分 再開〕

◇ 大 賀 孝 訓 議 員

○田部井健二議長 2番、大賀孝訓議員。

〔2番 大賀孝訓議員登壇〕

○2番 大賀孝訓議員 議席番号2番、大賀孝訓と申します。よろしくお願いをいたします。

きのうきょうあたりのマスコミによるニュースを聞いておりますと、平成28年度予算の概要が固

まりつつある。特にことは、史上空前の96兆円超えの国家予算が成立見通しである、編成見通しであるというふうなことでありました。その中でも、特にいわゆる国費の純増が3兆円を超えてきておるということで非常に喜ばしいニュースではあると思いますが、ただその中で懸念されますのは、当初予算がふえてもいわゆる地方交付税と言われる地方に回ってくるお金は2,800億円ほど削減をしておると。全体のコストがふえる中で、地方交付税については削減をしておるということで、非常に政府、いわゆる国家にとっては、地方の財政は自分で頑張らなさいというようなことではなからうかと思っております。

その中で、邑楽町においても新年度予算の編成が真っ盛りだというふうに思っておりますが、現状ではどのくらいのペースで進んでおりますでしょうか、町長にお聞きをいたします。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員がご指摘されましたように、現在平成28年度の予算編成に向けて作業を進めております。現在では、総務課長の査定ということになっておりまして、それを見ますと、大変な支出の増が見込まれる、言ってみれば事業をそれぞれの課で今まで以上に取り組みを積極的に考えていただけているのかなと思います。しかし、反面歳入等を見ますと、それに十分見合うだけの歳入がないということも現実でもありまして、そういう点では、これから町長査定もあるわけでもあります。十分精査をした中で、行政運営において町民サービスが低下しないような形での平成28年度編成をしていきたいと、このように思っております。具体的な数字については、まだ固まっておりますので、後ほどお示ししたいと思います。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 まだまだ今町長がお答えのとおりであると思いますけれども、かなりの多くの予算要求が出ておって、これから苦勞のしどころかなというふうな感じを持っております。

さて、そこで今町長がおっしゃったように、なかなか町独自の自主財源の伸びというのは期待をできないということでありますので、入ってくるお金が少ないのであれば、出ていく歳出の削減をこれからは大きな柱に据えていかなければならない、このように考えます。今までは、ともすればいわゆる高額納税者であるとか、高額納税法人であるとか、高いお金、高い税金を納めてくれた人がいい人だとか、あるいは立派なことだとかいう風潮でありましたけれども、今後は削減ということを考えていくと、いわゆる町の支出をふやさないためのことをよい方向だというふうな考え方を変えざるを得ないような状況にあると思っております。特に支出の中でも、町にとって非常に大きなウエートを占めます国民健康保険であるとか、あるいは介護保険、後期高齢者医療等の特別会計が非常に町の財政の大部分を占めておるというふうなことであります。これについて町長、この特会、いわゆる特別会計の削減についてどのようなお考えを持っているのか、お聞きをいたします。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 お答えいたします。

保健事業については、今言われましたように国民健康保険をはじめ、多くの特別会計があるわけですが、これらの特別会計への一般会計からの支出金額というのは年々増加をしております。それを少しでも削減をするといえますか、繰出金を少なくするというのを考えますと、それぞれの保険に応じていわゆる健康の維持増進、言ってみれば健康に対しての予防活動を重視していくということがこれからは求められるかなというふうに思っております。したがって、それぞれの保険制度の中で取り組んでいるわけでもありますが、それらの保健予防に関する事業を今以上に積極的に取り組むことによって、一般会計からの支出を少しでも削減するような方向で考えていきたいと、このように思っております。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 町長のお答えを聞いて安心をいたしました。やはり町長、町の執行部としてもそういった特会への支出金を極力抑えたいと、あるいは削減をしていく方向を考えているということは大変力強い言葉だと思っております。

さて、それでは具体的にどういう施策をしたら削減なり、あるいは上向きの支出を少なくとも横ばいに抑えられるかというふうなことがとても大きな課題になってまいります。特に町長も言いましたけれども健康管理面、あるいは予防医療、あるいは健康寿命の増進といえますか、これらのことが非常に大きな役割を持ってきます。

ここでお聞きをしたいのは、具体的に何をしていると、削減方向に持っていくかということであると思います。6月議会のときもちょっとお聞きをしました。提案もいたしましたけれども、国保等についての健康対策については、ウォーキングであるとかジョギングであるとか、そういった運動を促すような施策も必要であろうと。それから、ラジオ体操等の奨励。町長もラジオ体操やっておるようにお聞きをしますけれども、太田市でやっているようなラジオ体操のCDを各自治会に配って、6時半に起きなくても人々が集まるところでそういった体操ができるような方策であるとか、何かいろいろな方策があると考えております。

特に今、後期高齢者の問題、これはどんどん支出がふえてくると思いますが、確かに町を見渡しますと、歩いている人も多く見受けられます。あるいはグラウンドゴルフ等に興じていらっしゃる高齢者もかなりいらっしゃいます。ただ、問題は、こうやって表に出られる人たちはいいのですけれども、なかなか家の中に閉じこもってしまって表へ出ることが少ない、表で運動することも少ない、表で人々とコミュニケーションを交わす機会も少ないような方々をどうこれから健康にしていくかということだと思っておりますが、1つは町の保健師等の増員を私は求めたいと思っております。というのは、やはり町民全体の健康増進のために、保健センターにいる保健師から表に出て在宅訪問をするなりして健康を促すような、あるいは運動を促すような施策をしていかないと、

人件費はかかっても、それに見合う以上の健康対策がとられれば、これはこれで特別会計への支出も抑えられるというふうに考えますが、この辺について町長いかがでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 歳出の削減については、保健事業もそうであります、一般の事業の中でも歳出削減についての考え方を進めていかなければならないというふうに思っております。特に町のほうでは、平成25年に第3次の行政改革大綱ができておりまして、それに基づいていわゆる一般事業について行っております。具体的には、現在進めている関係では各種補助金の補助事業の見直しを行っております、約200件ほどの補助金の支出がありますが、これらが有効に活用され、そして効果的な事業になっているかということも現在進めております。

それから、使用料については、先ほどのご質問にお答えをいたしました、やはり基本的な考え方を示す中で、使用料のいわゆる利用者負担の考え方も今進めておるところでもあります。特に金額的な面で効果的な面といいますと、電気の使用料でありますけれども、これが今まで東京電力のほうからの供給をいただいていたわけでありまして、一昨年から民間の電気事業者から電気の供給をしていただいております、金額では年に約900万円ほど、約1,000万円近い数字の経費の軽減が図られたということが具体的に申し上げます。

また、保健の関係では、議員のご質問ありましたように、確かに健康維持増進をしていくということで考えていますと、やはり運動といいますか、栄養、それから運動、休養ということが十分に必要だと思います。中でも軽運動については、現在も行われている人大変おるのですが、具体的に申し上げますと、実は先日町のほうでもこのウォークのためのジョギングコース等も中央公園周辺を中心といたしまして、500メートル、1キロメートル、1.5キロメートルというようなジョギングコースも設定したようでもありますから、こういったことも有効に活用していく中で健康維持増進を図っていくことが大切だというふうに私も議員と同感でもあります。

加えて保健師の増員ということがありますが、これについては確かに大変健診事業はふえておりますが、しかしいわゆるデータヘルス計画ということ国をのほうでも進めているようであります。やはりデータに基づいて、特定の医療を必要な方についての保健師の訪問指導というのは大変大切なことだというふうに言われております。しかし、保健師の増員ということになりますと、今6名ほどおるのですけれども、これからそういった計画をもとにして、保健師については適正な指導ができるようにこれからも進めていきたいというふうに思っております。

特に増員については、現在のところ考えておりませんが、これからそういった事業展開がふえると、また進めていくことがより効果的であるということであれば、やはりそういったことも検討していかなければならないのかなと、このように思います。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 今お答えになられたとおりでありまして、何としても健康なまちづくり、国保あるいは介護、あるいは後期高齢者の特別会計に対する支出を抑制しなければならないということでは共通をしておると思いますけれども、特に今具体的に保健師の増員というふうなことを申し上げましたけれども、現状の保健師6名いても、半分ほどが産休や育休等で休まれていると。臨時に応援いただいている方も含めて事業を進めているということは、担当課長からお伺いをいたしました。しかしながら、保健師を増員したことによって人件費がふえても、それ以上の特別会計の支出への削減効果があれば、それはそれで1つの具体的な成果かないうふうに思いますので、今後はぜひ保健師の増員も考えていただきたいというふうをお願いをしたいと思っております。

さらに、具体的には隣の太田市ではいわゆる市内の保健推進員というのですか、健康推進員ですか、これらを活用して太田音頭等で、どうもラジオ体操はまだきついという高齢者については、歌に合わせて体を動かすような施策もしておると。こういったことであると、そんなに負担、ラジオ体操のように飛んだりはねたりということもありませんので、体を動かすことに関してはいい成果が出ているというふうなこともお伺いをいたしました。ぜひ担当課に命じて、これら隣の市でございますので、これらの健康体操についても調査をしていただいて、具体的に取り入れられるものがあれば取り入れて本町にも生かさせていただければなと。

さらに、前も1度質問をいたしましたけれども、多々良沼で群馬県によっていわゆる社会生活の基盤整備事業として遊歩道が設置をされております。1周5.75キロぐらいの遊歩道であります、非常に風光明媚なところで、交通の心配もなく健康増進が図られるような施設になっております。私もここを歩いておりますけれども、かなり多くの人が歩くような姿が目に見えてまいりました。町内においても前も提案したとおりであります、こういったウォーキング、ジョギングコースの設定、これらを多々良沼のように遠くではなくて、中央公園にもつくっておるというふうなことでしたけれども、各地区で高齢者、これらの方々が気軽に歩けるようなコースをつくっていただきたい。これは、既存の道を交通量が少ないようなところ、こういったようなところを立て看板等を設置して、何キロコースですよというふうなことで、1つの目安を設けてウォーキングあるいはジョギングができるようなコースを身近に設定していただければ、ウォーキングの町、健康増進の町に大きな力になるのではないかとというふうに考えております。これらについても、ぜひ各関係課に命じてご検討いただければありがたいというふうに思っております。

それから、同様にに関して、今度中央公民館ができます。教育長にお伺いしますが、町の体育協会のほうではおはようウォークを年に1度実施しておると思います。これらの関係団体に通じて、社会体育の一環として健康増進のために、例えばおはようウォークのような運動をもっと拡充をして広げているようなこと、こういった町の団体との協力関係を進めてほしいと思っておりますが、教育長、その辺についてお伺いをいたしたいと思えます。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

ますますこれから高齢者がふえていくという社会の中で、先ほどの予算削減も含めて、高齢者の健康づくりというのは大きな課題だと思います。今いいご提案いただいて、年に1回ということでは健康づくりまでつながらないということがございますので、これから関係団体ともよく協議をしまして、町を挙げて継続的にやっていけるものを考えていけたらいいというのは思っております。そのうちの1つとして、出てこられない人のためにも、町民体育館のほうでは地域に出向いて行って、出前で簡単な本当に体を動かすスポーツというのをやり始めましたので、これも継続していけたらと、そんなふうに考えております。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 教育長、できれば考えるだけでなく、実際に具体的な動きを出してほしいというふうに思っております。特に社会体育については、いわゆる競技スポーツの向上だけでなく、健康なまちづくりのための施策をどんどんと具体的に進めていかないと、これを長期的に1年計画、2年計画という短いスパンではなかなか削減は達成できませんので、長い目で見て継続的に運動が行われるような、あるいは健康づくりが行われるような施策をぜひ具体的に実行に移してほしいと思っております。その中でも、例えば中央公民館、平日の午前であるとか、あるいは平日あいているような時間帯を狙って、中央公民館のホール等を使って健康運動というのですか、これらの主催事業も催していただくなりして、中央公民館も有効な社会体育、あるいは高齢者健康維持の場として活用するような方策もぜひ立てていただきたいというふうに考えております。

それから、いろいろと健康な体力づくりだけではなくて、今は高齢者のいわゆる認知症予防の効果的なものとして、例えば健康マージャン等の普及も大泉町、太田市等でも行っております。これは、いわゆるかけマージャンとかそういうのとは違って、一般的なことでありますが、これを普及している団体もあります。ぜひいわゆる認知症予防のためにも、こういった新しい試みはどんどん取り入れていただいて、健康な、体力だけではなくて頭をどんどん使わせて認知症の予防に役立てるような施策についても各課で研究をして、実際に医療費の削減、あるいは介護予防の削減に努められるような方策を立てていきたいというふうに考えておりますが、町長、これについてのお考えをお聞きしたいと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどのご質問の中で何点か提案をいただきました。特にウォーキングマップあるいはジョギングのマップ等については、既に健康福祉課のほうでも作成をしてあります。立て看板の設置ということについては、やはり見える形でのウォーキングということになりますから、これは設置したいと思います。

それから、こういったマップができて、先ほどご質問ありましたように指導面で十分啓蒙、周知徹底が図られていないということになりますと、やはりつくただけで終わってしまうということがありますから、これは担当課のほうにこの内容を十分周知して、継続的に行われるような形で進めていきたいというふうに思います。多々良沼の周遊コースについても、生涯学習課のほうでは次年度からおはようウオークということも、もちろん団体の皆様のご協力をいただいてということになりますが、そちらのほうに変更して実施をしたいというような計画もあるようでありますので、これが計画倒れに終わらないような形でぜひ進めていきたいと、このように思います。

いずれにいたしましても、やはり日々の生活の中で、健康維持、もちろん高齢者が多くなっている中で認知症の方もふえているということもあるわけでもありますので、少しでもそういったことについて、いろんな事業を通して少しでも抑えられるといいますか、健康維持ができるように努力をしていきたいとします。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 ということで、重ねて申し上げますが、高額納税者あるいは高額法人からいわゆる特別会計、医療関係への削減をしたような人たちは、実質的に町の支出の抑制に努めておるわけですので、ぜひそういった方への対応も見直していただきたいなど。

以前町の職員は、私が教育委員会にいたころに年間一度も病院にかからなかった、いわゆる保険を使わなかったという人に対して表彰制度というか、あったような気がするのです。これが今はないかなというふうに思っているのですが、広く町民にも1年間なり健康で過ごしたという人は、それだけ国保からの支出がないわけでありますから、この辺もぜひ町長見直して、何かの方策で健康維持に努めた人は税制にも努めているのだというふうな感覚で、何かアイデアがあればお聞きしたいというふうに思っていますが、いかがでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 健康を維持増進をする家庭に対して、何らかの方策を考える考えはないかということですが、以前は健康家庭については報奨制度がございました。その後その制度については廃止をしたという経緯があります。これについては、十分いろんな面で検討を加えていかなければならないというふうに思いますので、十分検討をさせていただくことでお願いしたいと思います。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 今そのようなことで、町長がおっしゃったようなことで、やはり健康増進、あるいは医療費を使わないような生活をしている方にも、ぜひそういった意味でいろいろとお考えをめぐらす中で、いろんな関係課でこういったことについても対策を練っていただいて、高額納税者だけがいいのではなくて、それは立派なことですけども、町の支出削減に協力をしたような人も何らかの日の目が当たるような方策も考えていただきたいというふうに思っております。特に今

の質問では、そういった健康増進をこれからどうしていくかと、特別会計の支出をいかに少なくしていくかということについて、全庁を挙げて各課で知恵を絞っていただいて、自主財源の伸びが少ない中、そういったこともご検討いただきたい。

さて、町長もう一点、大変財政がこういったことで硬直化をしておるというふうなこともお聞きをしておりますので、来年度、平成28年度予算についても組むのが大変ご苦労しておるかと思うのですが、現在財政調整基金についてはどのくらいあるか概算で結構です。大体の数字で結構ですので、もう一度確認をしたいと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 平成27年9月補正後の残高でありますけれども、20億700万円という形です。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 20億円超えたような財政調整基金があるというふうなことでご確認をいただきましたけれども、そもそも財政調整基金というのはためるだけの財政調整基金ではなくて、何かの機会にきちんと使うということも考えなければいけない。財政調整基金というのは、もともと財政調整ですから、いかに有意義に使うということが財政調整基金だと思われまふ。町長、来年度の当初予算を編成するに当たって、この財政調整基金から取り崩して不足分を埋めるような、そういう使い方の考えがあるかどうかお伺いをしたいと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 財政調整基金については、議員ご指摘のとおり財政を調整するということでの基金ということでもあります。したがって、歳入の減少傾向ということになりますと、やはり何らかの手当をしていかなければなりません。議員の皆さんのいろいろご協議の中でお許しをいただく中で、平成28年度予算の中では財政調整基金を有効に活用するように、これから予算編成の中で考えて、またその節は議員の皆さんにご理解いただきますようお願い申し上げたいと思います。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 財政調整基金の有効活用をしていかなければならないということをお答えいただきましたけれども、確かにこういった町の自主財源が伸び悩んでおると。それにもかかわらず支出はふえていくというふうなことであれば、財政調整基金に有効な活用方法を見出していくというのもこれからの大きな課題であると思われまふ。ぜひ町長あるいは執行部の皆さん、財政調整基金の有効な活用をお願いをしたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

続きまして、全く話題が変わるのでありますけれども、教育委員会のいよいよ教職員の人事異動のシーズンになりました。教育長、2点だけお伺いをしたいと思っております。まず、1点目は平成27年度末の教職員の人事異動について、教育長はどのような考えを持って臨まれておるのか、そ

れから人事異動の進捗率はどのぐらい今経過しているのか。多分10月末ごろには各学校から人事異動の希望調査が上がってきて、集約をしておると思っております。これに基づいて来年度の過不足の教職員定数も決まってくる、あるいは児童生徒の人数において学級編制も決まってくるので、おおむね、もう12月末ですから、来年度の需要と供給の関係も出てくるかと思われます。したがって、今お聞きしたいのは2点であります。ぜひこの2点についてお答えをお願いします。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

教職員人事についての基本的な考えということですが、3点ございます。まず、1つは邑楽町全体として見た場合に、各学校のバランスはどうか、平等性はあるか、これが1点目です。具体的なことは、男女のバランス、年齢構成、教科、各人の適正、一人一人の人が入ったことによる職場のよい雰囲気づくり、こんなことを考えて各学校のバランスと平等性。2つ目は、校長や先ほど議員のおっしゃった職員の個人調査票の希望にできるだけ沿っているか、一人一人がやりがいを持って力が発揮できて、そしてそれがまた組織力として成果を挙げられるか、これが2点目です。3つ目は、少し先を見通して、人事としての安定性があるか、この3つを頭に置きながら人事を今進めている最中です。

それで、進捗状況ということですが、12月1日が仮編成ということになっておりますので、自分の頭の中だけでは7割方構想は固まっていますが、人事ですので、県、つまり東部教育事務所への要望とか、それから町同士の最終的な交渉、そのところが残っておるという状況でございます。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 今幾つか述べられたと思いますが、私が聞きたかったのは、バランスだとか、希望だとか、先見性とか一般的なことでなくて、教育長自身が今年度末人事においては、例えば教職員の若返りを図るとか、あるいはベテランが力を発揮できるような人事構成をすとか、そういった私見をお伺いをしたいと思っておりました。毎年毎年男女バランス、年齢バランス等を考慮したものが行われておるというふうに思っておるのですが、聞き捨てならないのが、希望に沿ったと、教職員の。こんな人事をやっているのは教職員だけでありまして、町は希望なんて聞いていませんよね。町長部局のほうでうまくバランス配置をしていくわけです。

したがって、教職員の人事が甘いというのは、教職員のための人事であってはならないのです。あくまでも児童生徒を第一に考えた、邑楽町全体の教育力の向上を考えた人事でなくてはならない、これが一番大きいことなのです。今は車社会でもありますし、少しぐらい離れたところへ行っても、そんなに遠くの人事異動等はないはずなのであります。通えない人事異動はないはずです。ですから、教職員のための希望を聞いた人事ではなくて、邑楽町全体のバランスを考えた教育長

がおっしゃいましたけれども、もう一度考え方を变えて、本町の児童生徒の学力の向上であるとか、資質の向上であるとか、そういったことを念頭に置いた人事をしていただかないと困る、こういうふうに思うのでありますが、教育長はいかがお考えでしょうか。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 この個人調査票というのは、県のシステムに係るものでありまして、これを見て、そしてその希望どおりに行くということではありません。先ほど私が3つ基本方針を申しましたけれども、これは私自身の基本方針ですが、それに沿って進めています。そして、できるだけ若い人を多く取り入れたいという気持ちはありますし、希望を聞きながらやっていくことがやりがいにつながることもあるというふうに考えて、できるだけいい形で方針に沿った形でできるようにというふうに努力しております。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 気持ちはわかりましたけれども、ただ若い人もたくさん入れたいという希望を持っている。希望だけではだめなのです。努力しているだけではだめなのです。現実にはそれが実現できないと教育長とは言えないのであります。ぜひ実現できるように頑張っていただきたい。エールを送ります。

今お答えになったように、そういった希望があるのであれば、極端なことを言っては申しわけないのですが、例えば4月2日の町の辞令交付式に行きましたら、教育委員会から出された異動一覧が転補、転補で埋まっているというふうなことはないと思うのですけれども、これについてのお考えもお聞かせください。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 群馬県のほうでも人事に関する方針も徐々に変わってきておりまして、広域に人事ができるようにということで進めております。転補につきましては、もちろん何人かおりますけれども、今までもそうですし、これからは転補が数多く出てしまうということがないようにしたいというふうに思っていますので、結果が出ましたら、よくごらんになっていただければと思います。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 結果が出ましたらごらんになっていただきたいでは困るのです。結果が出たら動かしようがないでしょう。だから、結果が出る前に12月議会で聞いているのです。私は、何も学校名とか、そういう細かいことまで聞いているのではないです。転補、転補では困りますよというのは、某教育事務所においても、人事管理をやっている部門の方ですよ、邑楽町はあんなに町内で回しておいていいのですかと、あんな人事で大丈夫なのですかという声を聞きました。どこの誰

とは言えませんが、大丈夫ですかと聞きました。問題は、今教育長がおっしゃったように、努力はしますがとか、結果が出たらごらんに入れますとか、そういうことではないからここで聞いているのでありまして、ぜひ町の中の小学校でぐるぐる回すような人事、これはやめてください。いかがですか。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 大賀議員は、どなたからそういう情報を得たかわかりませんが、聞く必要もないのですけれども、そういうことは今までの実績を見ればわかっていただけたと思います。事実に沿ってご意見、一般質問をいただければありがたいと思います。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 誰から聞いたかということについては、言えと言うなら言います。言ってもいいですか。個人名まで出してしまっているのですか。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○2番 大賀孝訓議員 でしょう。だから、私は事実に基づいて言っているのです。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○2番 大賀孝訓議員 発言を待ってください。私の質問を聞いてから発言してください。

個人的な意見ではないのです。それから、去年、おとしあたりの意見でもないのです。かなり前からそれはあって、何回もそういうことを聞いています。これははっきり言います。ですから、ことしはそういうことがないようにお願いをしたいと言っておるので、ぜひそういう点で人事をお願いをしたい、これはお願いであります。ですから、事実であるとかないとかということの私の質問に対する反論よりも、示してください、ことしの教職員人事で。ぐるぐる回すようなことはしない、約束できますね。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 人事について、こういうやりとりが議場であるということが私には信じられません。そして、議場でない場所で結構です、その方のお名前を教えていただければというふうに、議場でないところでお願いします。

それから、ぐるぐるというのはどの程度の数かわかりませんが、若い人を多く取り入れて、広域に教育効果を上げるために人事を一生懸命頑張ってまいりたいというふうに努めると言うのはいけないとしたら、やっていきたい、そう考えます。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 人事については、今まで聞く人がいなかったから、なかっただけの話でしょう。ですから、こういう話が議場で出ないというのはおかしいと言いましたけれども、聞く人がい

なければ出るはずもない。ただ、人事については、本町の教育振興にとっては大きな課題であるので聞いているのです。ですから、ぜひことしはそういった点で指摘されるような人事がないようにお祈りをいたしております。ぜひ頑張ってやってください。期待をしております。

それから、もう一つなのですが、教育長は各学校長と頻繁に教職員についての意見交換をしておられると思いますが、現在いわゆる指導力不足教員というのは教育長のほうではどのくらい把握をされておりますでしょうか、いかがでしょうか。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 指導力不足教員ということですが、県の教育委員会では指導力に課題を有する教員ということで調査をしております。各学校の校長が身近に自分の職員をきちんと見渡しまして数を上げてくるのですけれども、邑楽町では各学校から該当者は上がってきておりません。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 大分辛辣な意見交換になってきたわけですが、指導力不足教員というのは確かに私も学校長をしているときに上げた覚えはあります。みんな各学校の校長が指導力不足で上げると、後ほど報告書が大変なのです。A、B、C、D、今Eぐらいまであるのでしょうか、評価が。上げるの大変なので上げてこないというのが教育界の現状なのでありましようけれども、教育長、いわゆる指導力不足教員というのは、今言ったように県の調査をしているしていない、それだけではないのです。学校長を教育長もしたことあると思いますけれども、いわゆる普通学級の担任が任せられないような教員がたくさんおるわけです。ですから、各学校長は新年度になると大変な思いをしてクラス担任を決めるのです。これ知っていますよね。そういった現状があるということもご存じだと思います、校長やったことあるわけですから。ですから、そういったような教員がいないと、教育長は把握していないということになれば話は簡単です。恐らく他市町村でも、市町村というか、村はないですね。他市町でも異動の際に障害となるような教員がいらないわけですから、スムーズに広域的な交流ができると思うのですが、いかがでしょうか。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 経験年数とか人間力、教師力、授業力、教育に対する情熱、そういうのを細かく見ていくと、個々の教職員によりもちろん差はあります。それぞれの先生が、今校長から該当者がいないと上がってきたように、適材適所で頑張っているというふうに私は思っております。私も指導主事訪問、それからふだんの行事、時間のあるときにはできるだけ学校に足を運んで、日ごろの学校の様子を見せてもらっておりますけれども、差はありますけれども、そういうことができないというふうなことは私も耳にもしていませんし、頑張っている姿を見ているという現状があります。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 よくわかりました。教育長がそういう把握をしておられるのであれば、それで結構だと思います。したがって、ほかの市や町から、この教員は要りませんよというふうなことはないというふうに思いますので、ぜひ広域人事を進めてください。お願いをいたします。これは、重ねてお願いするわけですが、ぜひ転補、転補で埋め尽くされるような一覧表ができないようお願いをしておきたいと思っております。

さて、もう一点なのですが、いわゆる教育界の常識の話として交換人事というのがございます。教育事務所を超えた管理職の交換、あるいは中堅教員の交換、3年間とか行ってくる。あるいは管理職の貸し借り……貸し借りという言葉は変ですね。ほかの市町村出身の人が管理職になってポストがない場合は、邑楽町あいていますか、仮に邑楽町ポストはありますかという場合には邑楽町に入れると。そのかわり何年で返しますよというふうな人事でございますよね。これはこれで結構です。表にしたくないことでありましょうから。私は、はっきりと言いますけれども。

今まで邑楽町においては、いろいろな交換人事がありましたけれども、来たのはいいけれども戻せないというふうなこともあったかに思います。ぜひことは約束どおり、交換で来た先生は何年という、表向いて議場で言えるような年数ではないでしょうけれども、約束どおり戻していただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

中堅交流で3年というふうに決められている場合、戻せなかったというのは、私の在職中には一人もおりません。今は、決まりできちんと決まっております。管理職については、交流人事というのがございますけれども、年齢によって2年と3年とか、3年と3年とか分かれておりますけれども、その約束の期間が過ぎましたら必ず戻したい、そう思っています。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 今の言葉を信じてよろしいですね。必ず交換については、戻すべきところに戻すということです。私も周りの町村の教育長とか、あるいは教職員係ですか、この辺からいろいろ話は聞いておるのですけれども、誰は何年だよ、誰は何年でとったのだよ、ここでは申し上げませんが、こういうことも聞いております。今のお言葉を信用しますので、ぜひそういった人事についてはしっかりとした人事をお願いをしたいというふうに思っております。

最後にもう一つなのですが、各市や町の教育委員会では、教育委員会事務局の中の教職員係あるいは教職員の人事、名前は各違うと思うのですけれども、教職員係のような立場の職員が各ほかの市町からの情報交換をしております。情報集めをしております。邑楽町では、どの部門で誰がどのようにほかの市町の転出入職員関係の情報を集めておるかをお聞かせください。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

人事に関する情報収集につきましては、さまざまなことがありますけれども、私と人事担当が内容によって分けて情報を集めております。

○田部井健二議長 大賀孝訓議員。

○2番 大賀孝訓議員 内容によって分けているということですが、実際には教育長1人がやっているわけでしょう、ほとんど。まあいいです。そういうことであれば、オープンな人事ということで信頼をしておきたいというふうに思います。

いろいろと教職員人事に関して質問しましたが、全ては邑楽町の教育をどういうふうに向
上していくか、いかに優秀な人材を邑楽町で管理職も含めて集められるかということが教育長の大きな手腕だというふうに思っております。ぜひ平成27年度末人事については、教育長の手腕を遺憾なく発揮しまして人事を進めていただければありがたいと思います。期待外れに終わらせるようなことがないようにお願いをしたい。

最後に重ねて言いますが、教職員人事については教職員のための人事であってはならない。邑楽町の子供、邑楽町の児童生徒、邑楽町民全体のためのことを第一に考えた教職員人事を行っていただきたい。職員のための人事ではないことをもう一度お願いをしまして私の質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

○田部井健二議長 暫時休憩いたします。

〔午後 1時57分 休憩〕

○田部井健二議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 2時10分 再開〕

◇ 原 義 裕 議 員

○田部井健二議長 6番、原義裕議員。

〔6番 原 義裕議員登壇〕

○6番 原 義裕議員 皆さん、こんにちは。多少眠いと思うのですが、よろしくお伝えしたいと思います。早いもので12月もあと1週間というふうなことになります。あっという間に過ぎてしまうということなので、大まかな政策や計画ではなくて、具体的に町民が理解、納得するようなものを示していただければというふうに思います。議席ナンバー6番、原義裕です。質問通告に従いまして、町長に町長のマニフェストと町政運営についての質問をさせていただきます。よろしくお伝えしたいと思います。

町長は、さきの３期目の町長選挙のときにマニフェストとして、大きな表題としては呂楽町第六次総合計画、また呂楽町版町づくりの総合戦略を策定して実践し、活力のある町づくりを行いますというふうに言っておるのですが、どのようなものにするのか町長のお考えを聞かせていただきたいと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 第六次総合計画については、10カ年の計画という策定の中で、最終的な目標というのは「やさしさと活気の調和した夢あふれるまち“おうら”」実現のためにこの計画を策定し、実行に移していくということであります。呂楽町版の総合戦略については、いわゆる地方創生事業に基づいた人口減少対策を中心とした呂楽町としての今後あるべき姿について、これまた同様の考え方の中で進めていくということでございます。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○６番 原 義裕議員 今のお答えで私が求めていたのは、ざくっとした大まかなものではなくて、やっぱり町長としてのお考えをも聞きたかったわけですが、先日第六次総合計画の策定の素案をいただきました。いただきましたが、今までの内容とほとんど変わっていないです。５年をめどに具体化するような内容ではあるのですが、あの内容ではいつ何をどうのこうのという起承転結というか、そのようなものが私の中に入ってこないのです。私も普通の一町民でございますので、多分町民の皆さんもあの計画書を見たときに、どういうものになるかというのがはっきりしていないのではないかなというふうに思います。先ほど言ったように、あっという間に過ぎてしまうのです。町長の任期においても４年間というのが決して長くはございません。その中で具体化したものをお聞かせいただければというふうに思うのです。

ですから、５年であっても、１０年であっても、やはり見直すのであれば、起承転結というか、プラン・ドゥー・チェック・アクションというようなものを確実につくって、目に見える、感じられるものを計画をして、具体化して実行、仕上げ、完成というのではないかなと思うのですが、町長どのようにお考えなのか、お聞かせいただければと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 10カ年の最終目標についてお答えいたしましたけれども、その実現のためにそれぞれの担当する部署においては、まず現状を認識していかなければならない、その現状について課題があるわけでもありますから、その課題を解決するためにはどのような施策が必要なのかということになるわけです。したがって、その課題解決のための具体的な施策というのは年次的な形で、特に10カ年ではありますが、５カ年あるいは３カ年のいわゆるその事業の進捗状況を見てローリングをする、その事業が有効に計画どおり行われているかどうかということの考えも十分含めた中で行

っていくということになります。

具体的な例を申し上げますと、中央公民館についてもそうありますが、以前の計画から積み残しとなってきたそのものが、いよいよ実現に向けての方向に向かっている。その方向に向かってきたということについては、それぞれの課題について十分慎重審議、この審議をする中で具体的な方向へと向かってきているわけでもありますから、これは任期の4年間ということでは、他の事業についてはできないものもあります、10カ年の計画ということでもあります。しかし、一つ一つその計画に沿った中での実行、実現ということを目指すということでもあります。

また、大きな行政需要があるわけでもありますので、具体的にこの問題についてということを公民館の例として挙げさせていただきましたが、今後もそういった実現に向けてこの計画を進めていくということでご理解をいただきたいと思います。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 この第六次総合計画の策定に当たって、ことしの7月に広聴会を4会場で行ったと思うのですが、参加者が非常に少なかったことは町長もご存じだと思います。やはり先ほど言った現状を見て認識をして、それで行っていくのだというふうなことがあるのですが、この第六次総合計画についても、あのように町民からの意見が吸い上げられなかったということは、これは反省をして、ぜひこれからの町政運営については1年に1回でも2回でも行って、やはり先ほど言ったプラン・ドゥー・チェック・アクションというふうなことで行っていただきたいと思うのですが、この件について町長のお考えをお聞かせください。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この総合計画の策定に当たっては、以前2,000人の町民の皆さんからのアンケート調査、回収率は低かったわけですが、いずれにいたしましても広聴会も含めて、町民の皆さんのご意見をお聞きして、そのことが町づくりの方向性を示して、計画の中にも盛り込んであるわけでもありますので、そのプランについては当然そういった貴重なご意見を参考にさせていただいたということでもあります。もちろん計画ということになれば、それをどのように実行に移していくかということになるわけでもあります、これについては先ほどお答えを申し上げたとおり、その事業の現状、課題等を十分理解した上でその事業の実行を行っていくということで考えております。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 私も再三この計画等については、第四次、第五次、第六次の素案を見させていただいても、ほとんど文面も内容も変わっていないのです。このような計画をつくるのであれば絵に描いた餅であって、つくる必要はないのではないかと。この前も私お話ししたと思うのですが、まさにそのように感じます、つくればいいのだと。計画は、こういうようにあるよということをいわば町民に知らせるだけ、伝えるだけ。実現はどうなるかというのは、10年後、20年後になるかも

しれませんというふうに私は町長からの言葉で受けとめたのですが、これでは町民は何を信じて邑楽町の協働の町づくり、住んでよかったというものにしていくのか迷ってしまうと思うのです。このような町民が迷うことについて、町長のお考えをお聞かせください。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町民の皆さんが町の行っている事業についての迷いがあるということは、私自身は思っておりません。と申しますのは、各事業年度ごとに議員の皆さんにもその事業内容、予算的なものもお示しをし、そして実行に移していくということでもありますから、町民の皆さんには、そういったことについては十分ご理解をいただけているものだというふうに思っております。やはりそういう積み重ねの中で今の邑楽町があるわけですから、以前にも増して邑楽町は他の市町に比較して、それほどおくれをとっているということについては私自身考えておりません。

それから、総合計画の内容が以前と変わっていないではないかというお話がありますが、変わっていないものもありますし、やはり新しく盛り込んだものもあります。この事業の、私は継続性ということが大切だというふうに思っておりますから、その事業の継続性を踏まえつつ、今よりもあした、あしたよりその先へということで、よい町をつくるようにこれからも努めていきたいと、このように思っております。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 そうしましたら、次の質問に行きます。邑楽町版の町づくり総合戦略を作成すると言っていますが、これについては国の地方創生事業政策の邑楽町版というふうなことで理解してよろしいのでしょうか、お聞きします。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 基本となるものは、国で示した地方創生事業を基本として、邑楽町版の総合戦略をいかに邑楽町に合った事業、邑楽町に合った人口減少対策が中心になると思いますが、計画をしていかなければならないというふうに思っておりますので、まさにこれから、私も選挙の中で訴えをしてきましたが、邑楽町が他の町よりも子供の子育てしやすいような環境づくりということで大きくは掲げさせていただきましたので、まさに地方創生事業の基本として、邑楽町に合った事業を、総合戦略を組んでいくということで考えていきたいと、このように思います。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 それでは、邑楽町版の町づくり総合戦略、これについてはいつ策定して、いつ実行して、いつ完成させるのかというものを具体的に町長の私案でも結構ですから、お聞かせいただければと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この計画については、近いうちにお示しができるというふうに思っておりますので、策定が済み次第、皆さん方にお示しをしたいというふうに思います。

それから、その中身についての実行ということですが、人口減少対策一つを挙げてみれば既に実行している事業もあります。具体的には午前中のご質問の中にもありましたけれども、国に先駆けて保育料の多子世帯に対しての軽減措置もその一つでありますし、これについては引き続き実施をしていきたいというふうに思っております。

それから、福祉医療費の問題もそうありますが、中学卒業までについては、入院、入院外とも無料化ということになっておりますが、これを高校生まで引き上げて、入院のみということでもあります。したがって、この地方創生事業については、これから具体的な形で進めるものについては、今までのものは継続し、また進めていく、前進できるものについては具体的にお示しをして進めていくと、その節はまたご指導をお願い申し上げたいと、このように思います。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 今町長のお話の中で、邑楽町版町づくり総合戦略については近いうちにというお話なのですが、具体的に近いうちでなく、いつごろまでということでお聞かせいただければと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 平成27年度末ということですので、平成28年3月までにはお示しをしたいと、このように思います。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 平成28年3月までには策定して、先ほど言ったこれを実行、また完成というのはどのくらいかかるのか、お聞かせいただければと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この総合戦略については、総合計画と重なる分もありますが、目標年次は5年というところでございますので、平成27年から……

〔「平成31年」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 平成31年度が目標年次ということですが、その中でこの計画、それからプラン、実行、そういったことを確かなものにしていきたいと、このように思います。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 そうしますと、町民の皆さんは来年の3月にこれが策定されて、邑楽町版の

町づくり総合戦略というのが平成31年には完成するというふうなことで、ある程度町民の皆さんが自分の頭の中でも協働の町づくり、住んでいてよかった、活気のある町づくりというものが描けるということを感じてもよろしいわけですね。

では、次に質問をさせていただきます。町長は、今総合計画なり総合戦略を大きく打ち上げて、そのほかに小さく、子供を生み育てやすい町づくり、教育文化の向上、高齢者、障害者福祉の充実、産業振興の推進というふうなことで、4項目それぞれマニフェスト挙げていると思うのですが、この公約、マニフェストというのは、町長にとってはどのようにお考えになるのかお聞かせいただければと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 マニフェスト、公約については、個人、私の考え、主張というものを広く町民の皆さんに表明をして、そのことについて町政執行していくということでもありますから、私は約束したことについてはやはり町民の皆さんに実行に移すようにこれから行っていかなくてはならないというふうに思っております。したがって、先ほどの地方創生の問題についても、行政、私どものほうだけで行うということではなくして、広く町民の皆さんへ意見も聞く、そういう機会も設けていかなければならないというふうに思っておりますから、そして果たしてその地方創生総合計画が町民の皆さんにどのように満足をしていただいているのかということも、やはりこの尺度として考えていかなければならないということになりますから、できるだけきめ細かい形での町民の皆さんのご意見を聞きながら、そしてその約束が果たせているかどうかということも自分自身検証していきたいと、このように思います。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 我々個人が相対で口約束ということも、やはり約束という契約書がなくても、実現に向けて努力すると思います。公約については公の約束であって、町長であれば支持者との約束事であって、実現に努力して達成させるということで町長の個人的な責任というものを感じて思うのです。ですから、私が今までも言ったように総合計画ですとか戦略とかというのは、単に絵に描いた餅ではなくて、それに実行して努力する。努力ができなかった、努力が足りなかったということで結果的に5年なり10年なりということは許されますが、やはりこういう契約というか、計画等々については努力、行動が必要ではないかなと。今のこの世の中では、昔は絵に描いた餅でもよかったかもしれませんが、今の時代ではそれでは納得しないのです。ぜひそれをお願いしたいと思います。

それで、先ほど町長が公約で挙げました子供を生み育てやすい町づくりというふうな中で、先ほど同僚議員が中学生までの医療費無料化等についてはということで、高校生についても4月に医療費無料化等々をしていくというふうな答えをいただきました。これは、大変ありがとうございます

た。

次に、私が質問させてもらいたいのは、零歳児期、保育の充実を行い、ファミリーサポートセンターを新設しますと言っていますが、この施設についてはどのような考えでいるのかお聞かせいただきたいと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、ゼロ歳児保育については、北保育園で実施をいたします。それから、ファミリーサポートセンターについては、やはり今子育てについていろいろ悩み、そして子育てについての相談ということが必要になるだろうと、またなっているだろうということを考えますと、そういった受け皿としての相談業務、また指導体制が必要だということがありますので、現に子育て支援センター等でやっておりますが、これらをもう少し充実をさせていきたいと、このように思っております。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 公約の中で、このサポートセンターを新設するというふうに言っているわけですが、これは新設、新しい施設をつくるのですか、つくらないのですか、どういうことですか。ちょっと聞かせてください。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 これについては、北保育園、今改築中でありますから、この北保育園等の一室を利用して、そういった相談業務といいますか、当たっていく、そしてやはり保育に欠ける、保育の状態等々も、十分お母さん、お父さん方の悩みもあると思いますから、それらのところで十分お聞きして、他のところへ指導するなり、そういった機会を設けたいと、このように思っております。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 それでは、次に教育文化の向上ということで、児童館を活用して放課後児童への学習指導を充実とありますが、これについてはどのようなのか聞かせていただければと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 今児童館を利用しているいわゆる留守家庭児童等は年々ふえているわけでもありますから、そういった放課後の時間を利用して学習の指導をしていただく方を現在も行っているわけでもありますけれども、なお一層そういった学習活動の場で、先生をお願いして指導体制を強化していきたいと、そのように思っております。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 わかりました。では、次に国際化社会対応の小中学校英語講師の増員と指導の検討をしていくというふうにもあるのですが、これはどのように増員をして、どのように指導をしていくのか聞かせていただければと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 現在もこの指導助手については、外国人の教師を招聘して行っております。以前は、各学校にということではなかったわけですが、昨年からですか、小学校、中学校各1校に1名のALTの先生をお願いをして進めているところでもあります。これから小学校の中でも、いわゆる英語教育が必須科目になるということを考えた場合には、やはりそういった体制づくりが必要だという考え方から今後必要に応じて教育委員会のほうと協議をして考えていければと、このような思いでもあります。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 これから小学校にも英語教師をふやしてということですが、そうしますとこの事業というか、人員はふやすのですか、お聞かせください。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 必要に応じてということを申し上げましたが、当然英語教育ということになりますと、正規の先生方の指導ということも必要になってくるかなというふうに思いますが、そういった状況があった場合には、やはり充実強化を図っていく必要性があると思いますので、これについては教育委員会のほうと協議をして、その必要性があれば対応していければと、このように思っております。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 このことについては、町長もマニフェストとして挙げているわけですから、町長自身もこの国際化に対応した英語授業というのは必要だと、大切だというふうに考えて、このように公約していると思うのです。にもかかわらず、必要に応じて教育委員会と相談してというふうに、今私はそのように感じているのですが、先ほど言ったように必要であれば増員、または英語授業をふやすというふうなことはやっぱりきちっとやるべきだと思うのです。必要に応じていったら、いつが必要になるのかという話になると思うのです。ですから、そのところをきちっとお聞かせいただければと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 充実強化を図るということになれば、当然必要性は出てくると思います。したがって、公約の中でうたっておりますけれども、そういったことも十分検討するということもあり得る

と思いますので、必ず増員するのかどうかということについては十分協議をしていきたいと、このように思っております。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 わかりました。次に、質問させていただきます。スポーツ施設の整備で、スポーツ振興をしますと言っていますが、ざくっとで結構なのですが、振興推進の中身をお聞かせいただきたいと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 今もスポーツ振興のための施設づくりを行っているわけでもあります。将来的には、この町民体育館を中心としたそれぞれの種目に応じた施設整備が必要だということになります。したがって、今担当のほうでもあの周辺のいわゆる利用の方法、グランドデザイン的なものも検討してもらっておりますので、総合計画の中でも具体的にはレスリング場の整備あるいは卓球クラブですか、そういった卓球の施設ということも総合計画の中には入っておりますので、そういったことも十分踏まえた中で、競技種目に合った形での施設整備をこれから行っていかななくてはならないだろうというふうに思っております。したがって、スポーツについては、種目が大変あるわけでもありますので、そういったことも十分考えた上で振興が図っていければというふうな考え方であります。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 それでは、次の質問に行きます。産業振興の推進の中に、農業の六次産業化の推進と直売所の整備を図るとありますが、これは道の駅の具体化ということで考えてよろしいのですか、お聞かせください。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 これからは、農畜産物の生産だけでなく、やはり付加価値を高めた加工といいますか、そういうことが私は必要になってくるかなというふうに思います。そういったことを考えると、いわゆる六次産業化の推進というのは大切なことだというふうに思っておりますから、今現在でもあいあいセンターを中心にしてそういったことも行っていただいておりますが、そういうことをなお一層進めていければというふうに思います。

その販売の方法ですが、特に道の駅ということについては、いろいろ他の機関に相談はしているのですが、なかなか具体的な点が見えてきませんので、将来的には農協あるいは関係する方との協議の中で進めていかなければならないのかなというふうに思っておりますので、具体的に道の駅ということだけでなく、今後煮詰めていく上でそういった方向に進めばよろしいのかなというふうに思っておりますので、現在のところは具体的に道の駅とか、あるいは六次産業化をこうしよ

うというような品目については特に考えておりませんが、いずれにしてもそういった点を振興して推進をしていきたいという考え方でございます。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 この道の駅構想については、町長も4年前ですか、選挙公約に挙げて実行していくというふうにあったと思います。この道の駅を単に販売するとかというだけではなくて、いろんな企業誘致、また雇用の促進ということも考えられるわけです。ぜひこれは農協とかほかの協力団体というよりも、コンサルタント等を入れて実現に向けたほうが早いのではないかなと思います。農協自体は、今は自分の頭のハエが追えない状態だと思うのです。ぜひそのところを考え直して、実現に向けていただければと思います。

次に、町民農園をつくり、遊休農地の活用を図るというふうにあるのですが、これについては町民だけではなくて、町外の方たちも対象としたもので、強いて言えば、言葉はちょっと悪いのですが、Iターン並びにUターンをもくろむものと考えてよろしいのでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 これは、遊休農地が有効に活用がされる、できるということであれば、今言われたように町民の皆さんのみならず、帰町された方、あるいは引き続きこの参画をしていただける方ということについては十分可能だというふうに思っています。ただ、さっきの質問にもお答えいたしましたけれども、今担当のほうにその実行度について調査するようにということで命令してありますので、具体的な方向性が見えてくるかなというふうに思っておりますので、私自身これについては他の目的も考えられると思いますので、十分この実現に向けて頑張っていきたいと、このように思っております。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 今の町長のお答えですと、まだ私しっくりしないのですが、時間の関係もございまして、次の質問に行かせてもらいます。

次は、町長の産業振興推進の中に、新たに産業団地を造成して企業誘致、雇用の創出を推進したいというふうなことを挙げているわけですが、昨年工業団地の造成がだめになったわけです。改めて団地を造成する、企業誘致、雇用の創出をと言っておりますが、町長の頭の中に、どのくらいの構想でこの団地を造成していくのか、具体的にお聞かせいただきたいのですが。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 工業団地の造成ということになりますと、これはもちろん県との協議ということになります。目安としては20ヘクタール以上の集団形成がされた土地ということです。現在町内の5カ所ほどの場所を県のほうにも協議対象地域として挙げてあります。県のほうは、大変工業団地

の土地の持ち合わせが少ないというような形があるようで、前倒しでその調整ということも私のほうに来ておりますので、その5カ所の中から特に優良工業用地として適正である、優良な土地であるということについて今選定をしておりますので、ぜひ私もこの団地形成については進めていきたいというふうに考えております。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 5カ所というふうに具体的に上がっておるわけですから、県では工業団地が不足していると、募集をしているのだよというふうなことで新聞報道等も取り上げられているわけですから、いつやるのかと言ったら今なのです。ぜひ名乗りを上げて勝ち取っていただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは、次に行きますが、先ほど同僚議員から今現在の財政調整基金はということで、20億700万円というふうなことで聞いておりますが、邑楽町としてはこの財政調整基金はどのくらいあればいいのかお聞かせいただければと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 財政調整基金の基金としての額がどの程度あればということですが、非常に経済の状況も十分あるわけです。したがって、町政運営をしていく、歳入の不足が生じた場合にどれほどの金額が必要となるか、基金として保有しておくのがよろしいのかということは、非常に金額で申し上げるのもちょっと難しい点があります。ありますけれども、やはり以前私がお預かりしたときの数字が約12億円でした。この健全な財政運営をしていく上での充当金額ということについては、私自身が思うのは、そうは言っても必ずしもそういうことにはならないかと思うのですが、やはり15億円前後かなというふうには思っております。したがって、十分行政運営をしていく上で間違いのないような形で基金というのは必要だというふうに思っておりますので、これはあくまでも私の思いではありますが、この数字の利用については議員の皆さんにお諮りして進めていくということで考えております。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 私案にしてもはっきりした金額を言っていただきまして、ありがとうございました。このように言っていただければ、町の先ほど平成28年度の財政予算等々についてもしやすくなっているのかなというふうに思います。前向きな予算を使うのであれば、議会においても決して反対をする議員はいないと思います。ぜひ町長として堂々と予算を議会のほうに上程していただければと思います。町長は、邑楽町の経営責任者ですから、財政はもちろん、また町民のサービスもきちっとしなくてはならないと思いますので、よろしくお願いします。

時間がなくなってきたのですが、ちょっとお聞きしたいのですが、今年度の、平成27年度の年度末の繰り越し金額がわかるようであれば、ざくっとで結構ですから、聞かせていただければと思い

ます。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 平成27年度末ということになりますと、今事業執行中でありますので、その繰越額がどれくらいになるかというのは、金額については特に申し上げられませんが、かといって今事業計画をしている段階でもあります。十分精査した中で繰越額がなく、赤字決算にならないような形で、これから残された期間を運営していきたいと、このように思います。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 町長、その答えですと納得できません。なぜかというのは、この12月議会においても補正をやっておるのです。そういうふうに行っているわけですから、民間の会社ですと月次決算したり、必ず中期決算等々をして大まかな概算を出すわけです。町においても出さないということはあり得ないのです。また、町長自身が、ざくっとでも結構ですから、そういう内容というのは絶対に知るべきなのです。知っていなければ町政運営なんかはできないのです。今副町長からメモを渡されたので、ちょっと教えていただければと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員のおっしゃることは十分わかりますけれども、今事業執行中ということをご理解いただきたいと思うのです。したがって、前年、今までの経過ということであれば、平成26年度で約3億円ほどの繰り越しがありました。しかし、これは平成27年度で果たしてどれくらいの繰越額になるかということの数字を申し上げたときに、またそれがひとり歩きしてしまっは大変皆さん方に弁明のしようがありませんので、そのようなお答えをさせていただきました。十分精査した中で、繰越金の額も、先ほども申し上げましたが、赤字にならないような決算ができるように頑張っていきたいと、このように思います。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 どうも町長の言うことが納得できないのです。毎年そういいますと、何だか知らないけれども、3億円、4億円が残ってしまったのだよというふうなことかなと思うのです。そうすると、ことしも事業中だから今は出せませんと。3月になったときに、何億円というものが残りましたよというふうな決算では民間では絶対許されないのです。健全経営が、例えば今町ではお金がないから事業ができませんというふうなお話も聞くわけですが、決してそういう理由にはならないのです。大まかでも結構ですから、この議会終わってからでも結構ですから、ざくっとして結構です。厳密に幾ら幾らということではないのですから、大体このくらいが残るだろう、このくらいが赤字になるだろうということでも結構ですから、後で教えてください。よろしくお願いします。いいです、後で。

町長においては、やはり締めくくりの4年、まとめの4年、総仕上げの4年ということで有権者に訴えて選挙勝ったわけです。ぜひ町長の手腕を発揮していただきまして、さきの財政調整基金等々もしっかり使ってもらって運営をしていただければと思います。私が実は懇意にしている経営コンサルタントからは、経営ビジョンは明確にして、具体化して実行しなければ絵に描いた餅であるというふうに言われております。そして、自分の価値観、自分の見方、考え方、これを確立する必要があるというふうなことを言われております。町長も経営者ですから、町政運営を読むときには、ぜひそのところをお願いしたいと思います。

時間がなくなってきましたので、最後の質問をさせていただきます。郡内の板倉町が少子化、財政不安等々によって町の将来を見据えたとき、館林市と合併をということで、合併協議会というものをつくるというふうな話聞くのですが、邑楽町として、町長としてどのようにお考えになるのかお聞かせいただければと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 邑楽町として合併協議会をつくることについての考え方ですが、現時点についてはそのような考え方は持っておりません。

○田部井健二議長 原義裕議員。

○6番 原 義裕議員 町長の今のお言葉で、やはり邑楽町については独自の町づくりをしていくのだというふうなことが町民の皆さんにも知らせられたかなというふうに思います。いずれにしても、やはり町民にわかりやすい町政運営を行っていただければと思います。この4年間におきましては、町長の町長色というものをきちっと出して、やはり活気ある町づくり、住んでよかった、住みたい町ということをお願いできればと思います。この4年間期待しますので、よろしくをお願いしたいと思います。

以上で私の質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。

○田部井健二議長 暫時休憩いたします。

〔午後 3時10分 休憩〕

○田部井健二議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 3時20分 再開〕

◇ 黒 田 重 利 議 員

○田部井健二議長 1番、黒田重利議員。

〔1番 黒田重利議員登壇〕

○1番 黒田重利議員 皆さん、こんにちは。私がきょうの最後ということですので、どうぞお願い

いたします。通告に従いまして、1番、黒田重利、一般質問をさせていただきます。

まず最初に、前回の部活動の件ですが、中学の部活動について、マイタウンティーチャーを部活動の顧問として使うことについての県教委へ要望していたという話なのですが、その後の状況、状態についてお聞きしたい。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えいたします。

一般質問でお答えしてから東部教育事務所のほうに何回かお願いをしました。東部教育事務所のほうも県教委と何回も交渉してくださいまして、呂楽町教育委員会へも2回ほど足を運んで指導をしてくださいました。結論としますと、マイタウンティーチャーはふだんの部活動の指導はできるが、大会への引率ができないので、他の部の顧問を兼ねてもよいから県費教職員を顧問として置くようにということが結論でした。それを呂楽町教育委員会は受けまして、東部教育事務所から呂楽町も学校職員、保護者、地域、スポーツ関係者、地域の学識経験者等による呂楽町中学校部活動検討委員会を設置して、中学校部活動の課題や改善策を検討したらどうかということがありましたので、ご指導いただきましたので、その設置を考えた次第です。そういうことで、結論としますと、マイタウンティーチャーは現在のところ練習の指導はできるが引率ができないということで、これから部活動検討委員会で検討していきたいと思います。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 大会の引率は、教師でないとできないという結果になってしまったのですが、そんなにも教師教師というふうでなくて、何かほかにもっとマイタウンティーチャーでもやれるのではないかという要望のほうを出していただいているというのはあるのでしょうか。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 一昨日の新聞だったでしょうか、部活動の外部指導者を職員として迎え入れ、顧問も引率も可能にするという中央教育審議会の答申がちょうどおととい出されたところなので、これを今後注視していきまして、そのような方向になるように働きかけはしていきたいというふうに思っています。そして、引率は教職員しかできないということですので、呂楽南中学校のほうに特別配置教員を昨年より多く配置してもらおうということで今教育事務所には強く要望しています。

また、マイタウンティーチャーにつきましても練習が可能になるようにということで、町のほうとしても運動のできるマイタウンティーチャーを採用していきたいというふうに進めています。また、年が明けましたら、できるだけ早く中学校部活動検討委員会を設置、開催しまして、その新聞記事も含めて、また呂楽中学校、呂楽南中学校両方の部活動の問題も含めて部活動検討委員会で意見を求めていきたいというふうに思います。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1 番 黒田重利議員 そういこととすと、やはり部活動専門の特別講師が必要になってくるとい
うのを、これから新聞の記事に部活動の外部指導者を教員にといふような、こいふような考えは
教育長のほうは考えているのでしょうか。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 今の段階だと、中教審の答申が出されたといふ段階です。もう少しよく調べて
みますと、早ければ来年度中に学校職員として外部の指導員を学校職員として位置づける計画とい
うこもあるといふこととしますので、内容をさらに精査して学校のほうにもこいふふうになりそう
だといふことと周知しながら、それはいいこととしますので、前向きに考えていきたいといふふうに思
います。

ただ、心配なことが1つありまして、部活動は教育課程に位置づけられてはいないのだけれど
も、学校教育の大事な一貫として行われているものなので、教師と子供のよい関係を育てる有効な
部分なので。それとしますので、勝利至上主義になったり、部活動指導員の過重負担になったり、も
うそれで頼まれたのだから部活動もやれといふことと、過重負担になったりしないように教員と指
導者の緊密なコミュニケーションが図れるようにしていかなければなりません。こいふことを考
えながら前向きに考えていきたいと思っております。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1 番 黒田重利議員 教師と子供たち、その間にもしできるとすると、外部指導者といふ方が入っ
てくると思ひます。その取り合いの中ししっかりやってもらって、いざこざが起きないようにとか、
人間としますので、気に入った入らないとかいふ話が出てくると思ひますが、その辺は学校でよく話し
合っただいて、子供たちによりよいスポーツができるようにしてもらいたいと思っております。

次の質問ですが、呂楽南中学校では来年度の団体競技の種目にしてしまうと、団体競技といふと
野球とサッカーのほうで人数が足りない、もしくは合同チームか何かできないと、もしかしたら試
合ができないといふふうな話をちょっと耳に挟んでおりますが、その辺はどうでしょうか。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 呂楽南中学校の野球部とサッカー部が今のところ成立がおぼつかないのではな
いか、新入生を募集できないのではないかといふ話が教育委員会にも伝わってきました。それで、
ちょっと確認しましたら、説明会に来年度からは募集しないとお話をしようかなといふことがこち
らに連絡が来ましたので、新1年生で入部しよう、これから新入生が野球やサッカーをやりたいと
思っている子供もいるかと思ひますので、募集しないといふことはやめて、平成26年度の実績につ

いて、とりあえず部活動を説明しておくようにということで校長には指導しておきました。そして、もう少し子供たちに働きかけをして、ふやす方向で、潰さない方向でやっていったらどうかということで現在は進めているところです。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1 番 黒田重利議員 こういったときの対応として、今回の外部指導者ということになるのですが、団体競技と個人競技の場合の指導者というのは、例えば個人競技の場合は1人でも大丈夫、けれども団体競技になると全部いないといけない、これから今教育長が言ったように、できるだけ子供たちの様子を見て進めていくと。それでも集まらなかった場合はどんな方向性で考えているのか。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 学校では、4月に部活動紹介というのをやっておりまして、その時点でも子供の動きというのはあります。そこで最終的まで子供の動きを見て、どうしても集まらなければできないという状況はあるかと思えます。県のほうの救済措置として合同チームというのがありますがけれども、邑楽町の場合は合同チームというのが、邑楽中学校と邑楽南中学校の合同チームができればいいなということで考えておりましたが、片方が成立してしまうと合同チームは成り立たない、両方が成り立たない場合にのみ合同チームになるという条件と、あとは団体競技のバスケットボール、サッカー、ハンドボール、軟式野球、バレーボール、ソフトボールの6種目しかそれが許されていないということでいろいろ検討したのですけれども、合同チームも成り立つことができない状況です。これからの子供の動きを注視して、潰さない方向を考えていきたいとは思っております。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1 番 黒田重利議員 確認になるのですが、野球部、サッカー部の人数が足りないといった場合に邑楽中学校へ練習をしに行くというのは可能なのでしょうか。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 これまで個人競技の場合は、部活動は邑楽南中学校の部活動に入っていないながら、邑楽中学校で部活動の練習をするということが個人競技の場合はありました。団体競技ですと、たくさんその学校に子供がいることが多く、場所的なもの、道具の点とか、いろいろまた支障が出てきてしまいますので、今まではありませんでした。検討の余地はあるのですけれども、団体競技の場合は難しい問題かなというふうに思います。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1 番 黒田重利議員 今の話ですと、団体競技であるとちょっと難しいというお話を今聞かされ、ちょっとショックなところがありますが、できるだけこれも働きかけていただいて、みんなでスポーツができるようにしていただきたいと思います。邑楽中学校と邑楽南中学校とで平等な部活動の

選択はできるのかというのを頭の中でよぎっていますので、部活動、環境の充実をということで、何か教育長ありますか。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 部活動については、呂樂南中学校は規模の関係で現実に呂樂中学校より部活動は少ない、入りたい部活動に入れないという、本当に不平等な現実があります。しかし、その競技だけに固執しないで、ほかの部に入って広くスポーツの経験をしながら、今までやってきた種目をスポーツ少年団などで継続していくということも1つの方法かなというふうに思います。ただ、子供は、自分がやっているスポーツをやりたいという気持ちは十分に理解していますけれども、成長期ですから、ほかの競技もやっていくことも1つかなと思います。しかし、これから呂樂南中学校の部活動の問題というのは続いていきますので、教師の特別配置をふやしていただくように働きかけを強めたり、新聞記事に合ったような形で、できるだけ外部の人でも引率ができるというところを見ながら、愛知県などでは今現在それを先取りしているというような例もありますので、愛知県名古屋市のことを研究したりしながら、不平等を少しでも少なくしていきたいというふうには考えています。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 規模の関係で、部活動選べないということですが、その後の名古屋市の例ではありませんが、そういった方向性で、できるだけ多くの部活動ができるようにしていただきたいと思います。

最後になりますが、これから先人口減少ということを考えると、行く行くは中学校の統合になるのではないかなとは思いますが、それまでの間一人でも多くの子供たちが、自分が小学校から続けてやってきた大好きなスポーツを続けていられるよう考えていただきたいと思います。これは、自分の思いですので、答弁いいです。

次の質問に移りたいと思います。続きまして、町の防災についてということですが、平成27年9月に関東・東北豪雨と命名された大水害により、茨城県常総市では鬼怒川の堤防が決壊と、過去に例を見ないような水害を受けております。この水害、状況を聞いてみると数十キロ場所がずれていると、この呂樂町でも起きてもおかしくなかったというような例になっております。それを踏まえて、今回、町にあるハザードマップ、これの活用について、お聞きいたします。

○田部井健二議長 橋本安全安心課長。

〔橋本圭司安全安心課長登壇〕

○橋本圭司安全安心課長 お答えをいたします。

呂樂町災害ハザードマップは、利根川、渡良瀬川、矢場川などの河川が大雨により決壊したり、降った雨が川へ排水できずに河川が内水氾濫したりした場合に想定される浸水の深さや範囲、避難

場所などを住民の皆さんの避難に役立つ情報をわかりやすくまとめたものであります。このマップを利用して日ごろから雨の降り方や河川の水位などに注意をし、洪水に対する備えをしていただくことが重要です。洪水、氾濫の危険がある場合、どのような行動をとるかを常に考え、洪水時の安全な避難行動に役立てていただきたいと思います。自分の住む地域がどのようになるかを事前に確認できる資料ですので、家族でごらんになって、災害時にどこの避難所に避難するかなど話し合っておいていただきたいと思います。また、区の集会施設等の壁面に掲示するなどして、区民が集まったときに話題にさせていただくこともマップの啓発につながると考えております。

なお、国土交通省は来年の出水期、6月ごろだと思いますが、までに氾濫シミュレーションの発表を予定しております。詳細は未定ですが、そのシミュレーションの結果によってはマップの更新をする可能性もあります。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 このハザードマップですが、水害が発生したときに大変重要な書類となっております。これを広げると、利根川水系と渡良瀬川水系の大水で氾濫したときの状況が詳しく載っております。これは、とてもよくできているのですが、ちょっと周りの人に聞くと、6月議会のときも話が出たように、しまい忘れてしまっていないと。見つからないと。もっと簡単にわかりやすく、一目でも見てわかるような、例えばこれを広げると結構な大きさになります。必要な書類ですので、大きさになるのはわかるのですが、これを見なければ意味がないということになってしまいます。もっと簡単に何か皆さんがぱっと見て置いておけるようなものを考えるというのは、どうお考えでしょうか。

○田部井健二議長 橋本安全安心課長。

〔橋本圭司安全安心課長登壇〕

○橋本圭司安全安心課長 お答えをいたします。

周知につきましては、マップを発行しました平成26年3月に町内全世帯に配布をしました。町のホームページ上でも公開をしております。本年9月の茨城県常総市等の大水害の後、住民からマップに関する問い合わせが十数件ありました。その際お渡しするケースもございました。なお、ホームページ上では利根川、渡良瀬川が氾濫した場合の浸水予想図や避難所がパソコンの操作により拡大して確認できますので、ご利用いただきたいと思いますと考えております。また、議員に指摘していただきましたマップの拡大の件につきましては、ご要望があればデータがある場所の拡大図をお渡しすることもできます。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 パソコンの操作により拡大して確認できるような大きさのそういう書類を求められれば出していただけるということになっていますが、多分そのままであると災害時に間に合わない、もしくは自分たちがよっぽど気にしない限り、それが手元に来ないというようなことにな

ってしまうと、皆さんがパソコン操作をして、自分の自宅で拡大してコピーすれば何ら問題はないというようなことだと思うのですが、もう少し高齢者もしくはパソコンを使えない人のための考えとして、何かいい考えがあればお聞きしたいのですが。

○田部井健二議長 橋本安全安心課長。

〔橋本圭司安全安心課長登壇〕

○橋本圭司安全安心課長 お答えをいたします。

ただいま申し上げた拡大の件でございますけれども、例えば地区の防災訓練であるとか、そういったときに地区の住民の方にお配りしたいというようなご要望があれば、その前に拡大した資料を用意して区長等にお渡しすることは可能ですので、ぜひご要望があればお話をいただければと思います。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 地域の防災訓練、独自の防災訓練ということで、そのときに必要な書類をそろえていただけるということで、そういうのも各区長にあらかじめお話をさせていただいて、こういうことがあればすぐに用意できるのかというように、町にすぐ対応していただけたというような感じでいてもらえると、こちらも安心してそれを頼めると思います。

次に、災害時の支援についてなのですが、町独自の準備、町外からの支援、または町外への支援といった感じで町としてはどのような考えがあるかお聞かせください。

○田部井健二議長 橋本安全安心課長。

〔橋本圭司安全安心課長登壇〕

○橋本圭司安全安心課長 お答えをいたします。

2年ごとに町防災訓練を実施しております。ことしからより実践的な訓練を行い、住民の災害時の対応力の強化を目指しております。また、町内の行政区の中では、自主防災組織が中心となり、独自の防災訓練を実施している行政区もあります。これは、地域での共助を進めるという意味でも大変有効であると考えます。災害発生時には、町、消防、警察といった公共機関が迅速に対応しますが、発災直後の対応は被災地域に住む住民の皆さんの行動が大変重要となります。

昨年震度5強という強い揺れに襲われた長野県白馬村で、40棟以上の家屋が全半壊しながら、住民らの迅速な安否確認と救助活動により死者をゼロに抑えました。白馬の奇跡と言われており、住民の災害時の対応力の高さが全国から注目を集めました。地域での絆を強め地域力を高める、そのことが災害時の対応力につながると考えます。また町外からの支援等につきましては、県や近隣市町村、企業等と21の協定や覚書を結び、災害時に備えております。協定内容は、飲料水や生活物資、レンタル機材の提供、物資の緊急輸送など多岐にわたっております。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 ことしからより実践的な訓練ということで、参加型の防災訓練になったと思

います。参加型の防災訓練の割には、参加していただいたメンバー、例えば周知したであろう区長、区の三役の方、あとは小学校の消防隊みたいな、あとは消防団という感じでその場所にいたのを覚えております。人数にして町民の多分何十分の1という感じになります。これをもっと多くの人に体験していただけるような考えは、町のほうはどう言ってそれに参加してもらいたいというのを相手に伝えるには、どんなふうに考えているのでしょうか。

○田部井健二議長 橋本安全安心課長。

〔橋本圭司安全安心課長登壇〕

○橋本圭司安全安心課長 お答えをいたします。

防災訓練の周知につきましては、広報紙等で行って来ました。それから、区長会にもお願いをしてきた経過があります。次回からは、また青少年広場から場所を移す可能性もあります。十分事前に周知をしながら一般の方が参加できるような、例えば起震車の展示であるとか、そういった内容、来ていただいて楽しめる、それで覚えていただける、そんな内容を検討していきたいというふうに思います。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1 番 黒田重利議員 一人でも多くの人が参加できるように何度も何度も声をかけていただくというのが必要なと思います。

続きまして、町の防災計画では人口の34%の被害を想定していて、約9,300人程度の人が被災したという状況で、水や食料、毛布などの備蓄を考えていると思うのですが、今の現状とこれからの考えは。

○田部井健二議長 橋本安全安心課長。

〔橋本圭司安全安心課長登壇〕

○橋本圭司安全安心課長 お答えをいたします。

現在防災倉庫は役場の庁舎北側、それとヤングプラザ体育館北側及び町内の4小学校に設置をいたしました。備蓄品につきましては、乾パンやアルファ米などの食料が6,871食、飲料水が500ミリリットル換算で4,992本、毛布が940枚となっております。しかし、これは備蓄計画数には足りない状況であります。今後5年間をかけて計画的に備蓄したいと思います。

食料や飲料水については、おおむね賞味期限が5年ですので、賞味期限が近づいた備蓄品については、町や行政区の防災訓練時などで利用したいと考えております。また、水道課では1,500リットルの給水タンク1基と23リットルの非常用ポリタンク135個、6リットルの肩かけ式給水袋1,000個を所有しております。現在建設中の中野小学校プールには、プールの水を浄水する装置が設置される予定です。また、庁舎北側の防災倉庫には可搬式の浄水装置が1台ありますので、災害時には活用したいと考えております。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 今後5年をかけてという、皆様はどう思いますでしょうか。私としては、5年というのは大分長い期間ではないかなと。ただ、食品というのは賞味期限があるということで、5年をかけて順繰り順繰り、それとあと賞味期限が来てしまったものも少しずつ出せるということで多分5年、5年と言っているのだと思いますが、これはちょっと長過ぎると思うので、災害はいつ来るかわからないので、もう少し早く、できるだけ早くこれをそろえていただけると助かると思います。

それと私は、研修に行ったのですが、茨城県つくば市ですか、消防署に行ってみいました。そのときに常総市の水害のときに必要なのはボートだと、ボートがなかったら何もできなかったという状況の話を聞いてきました。ボートというのは、町のほうでは設備はしてあるのでしょうか。

○田部井健二議長 橋本安全安心課長。

〔橋本圭司安全安心課長登壇〕

○橋本圭司安全安心課長 お答えをいたします。

救助艇、ボートにつきましては町で設備はしておりません。ただ、館林地区消防組合におきまして、各千代田消防署、明和消防署、板倉消防署、この3つの消防署につきましてはボートは設備をしております。

それと、平成28年度の予算になってしまいますけれども、それ以外設備をしていない館林市の北分署、西分署、それと邑楽消防署、それと明和消防署が船外機付きのボートがないものですから、その4カ所に一応設備を予定するというような話は聞いております。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 町には、今のところ準備ができていないが、邑楽消防署のほうには平成28年度に来るということで、すぐそばにないというわけではないということで少し安心いたしました。そのときに一緒に聞いた話が、3.11の地震のときに何が足りなかったですかと聞いたら、燃料が足りなかったと、確かに燃料この辺もなくで並んで、役場の車からガソリンが盗まれたというような話も何か聞いた覚えがあるのですが、そこのつくば市の消防署は、消防署内に通常使っていていいガソリンスタンドをつくって、有事の際に足りないというようなことのないようにしているという話を聞きました。もちろんそれは有事の際ですので、電源が切れたらメーターが回らないというでは困るので、キュービクルの設備もしっかりしてあるということでしたので、その辺は町のほうではどんな考えがあるのか。

○田部井健二議長 橋本安全安心課長。

〔橋本圭司安全安心課長登壇〕

○橋本圭司安全安心課長 お答えをいたします。

燃料の備蓄、設備というか、その関係ですけれども、町では非常用発電装置のそれ用の燃料を確保しております。ただ、車両用の燃料については現状では確保できていないという状況でございます。

す。それと、ガソリンの備蓄用のスタンド形式のものをというお話ですけれども、現在のところそのような計画はありません。ただ、民間業者との協定等で優先的に確保はできるようなことが可能かどうか、今後検討していきたいというふうに思っております。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1 番 黒田重利議員 町にガソリンスタンド数軒あると思いますが、できるだけそこの連携を密にさせていただいて、町が考えていないのであれば、必ず燃料がなくなって活動ができないというようなことのないようにしていただきたいと思います。

続きまして、災害になるとトイレが今度は必要になってくるのではないかと、災害用のトイレということで、町の整備計画というのはどんなふうになっているのでしょうか。

○田部井健二議長 橋本安全安心課長。

〔橋本圭司安全安心課長登壇〕

○橋本圭司安全安心課長 お答えをいたします。

現状、安全安心課では、災害用携帯トイレの小さい袋ですけれども、その備蓄を考えております。また、避難所設置という状況になった場合、協定を結んでいる事業者等の協力を得て、迅速に仮設トイレの設置を行いたいというふうに思います。また、水道課では、今年度策定する邑楽町公共下水道事業業務継続計画、略してBCPと言いますけれども、この中で災害時の対応を定めておりますので、この計画に即して行動する予定であります。公共下水道に直接接続するタイプのトイレの必要性も考えられますが、今後避難所等の近くでの接続が可能かどうかも含めて検討していきたいと考えております。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1 番 黒田重利議員 町の公共下水道事業業務継続計画ということで、水道課のほうにお聞きいたします。簡易トイレについて、水道課のほうで考えているということは何かあるか。よく目にするのが、テレビ等でマンホールトイレとかが紹介されている、公園のすぐそばに幾つもマンホールのふたをあけると、そこに囲いをするとうトイレになるというようなとても便利なようなものが出ていると思うのですが、その辺についてどう思っているのか。

○田部井健二議長 茂木水道課長。

〔茂木一夫水道課長登壇〕

○茂木一夫水道課長 お答え申し上げます。

まず、マンホールトイレ、これにつきましては下水道のマンホールをそのままトイレとして利用するというトイレになります。したがって、大きな災害等になると下水道自体が閉塞、それから離脱、また水害による水没、そういう状況により使用できなくなりますので、下水道を利用する災害用のトイレとしては適さないと考えております。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 今の話ですと、下水道を使ったマンホール、要するに管が外れたり割れたりしてしまうと使えないということで、これは考えていないということですね、わかりました。自分もそれはちょっと気がつかなかったです。絶対大丈夫なものかと思っていたので、また違う考えありましたら、後でよろしいので、お願いいたします。

最後に、町の防災について町長にお伺いいたします。これからの町の防災についてどうお考えであるか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 防災対策の充実は、これは町づくりに欠かすことのできないものです。したがって、今までご議論いただいた点も重視しながら、やはり何といても自主防災組織が大切だと思っております。隣近所の皆さんに防災に対しての備えをしていただく、いわゆる自主防災訓練の実施について働きかけていって、身近なところから防災に対しての備え、結果として防災、減災につながると思いますので、これからそういった形も進めていきたいと、このように思っております。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 最後に訓練というのは繰り返す必要がありますので、何度も何度もということで啓発のほうをよろしくお願いしたいと思います。

以上で一般質問を終わります。ありがとうございました。

◎延会について

○田部井健二議長 お諮りします。

本日の会議は以上にとどめ、これで延会したいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田部井健二議長 異議なしと認めます。

よって、本日はこれで延会することに決定しました。

なお、あす25日は午前10時より会議を開き、本日に引き続き一般質問を行います。

◎延会の宣告

○田部井健二議長 本日はこれで延会します。大変お疲れさまでした。

〔午後 4時11分 延会〕